

◇インターネット論文術 M（開講単位数:2単位）

担当者:大場 博幸

充当科目コード：B101S0（総合科目Ⅰ）
 B102S0（総合科目Ⅱ）
 B103S0（総合科目Ⅲ）
 B104S0（総合科目Ⅳ）
 B105S0（総合科目Ⅴ）
 B106S0（総合科目Ⅵ） ※各自の履修状況により指定してください。

配 当 学 科：全学科・専攻

配 当 学 年：1 学年以上

◆**授業概要** 論文の書き方についての基本中の基本を講義します。これは基本ルールの授業であって、良い論文とか、論理的な論文の書き方というものではありません。論文とは何かといったことでもありません。論文の最低限のルールです。ですからこの授業では、最終的に簡単な論文を書いてもらいます。そこで論文のテーマを考えておいてください。テーマは何でもかまいません。とにかく自分が興味をもてるもののがいいです。

◆**学修到達目標** この授業では、論文の基本的なルールと作成法を身につけることを目指します。ですから、誰もが守るべき論文の作法を身につけていただきます。それも最低限のルールですから、良い論文とか、論理的な論文の書き方というものではありません。論文とは何かといったことでもありません。論文の最低限のルールを覚えるのではなく、身につけることを目指します。

◆**授業方法** メディア授業ですから、途中 3 回のチェックテスト（レポート）と最終論文の提出によって授業を進めます。最終論文では、最後の回で指示する形式で論文をだしていただくなくてはなりません。論文の形式ルールを学ぶ授業ですので、自分の勝手ではなく、一定のルールに従った書き方が必要になります。しかし堅苦しいものではありません。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	ガイダンス：論文 3 原則、本の紹介
	事前学修	テキストの「まえがき」を読んでおいてください。
	事後学修	1 章の 1 と 2 を読んで、この授業の考え方を整理してください。
2 回	授 業 内 容	レポートの書き方①：原稿用紙の使い方、資料の調べ方・探し方
	事前学修	1 章の 3 節を読んで、文献の調べ方を理解しておいてください。
	事後学修	実際にになにかの文献を調べてみましょう。
3 回	授 業 内 容	レポートの書き方②：辞典・事典・用語集、レポートの構造
	事前学修	ネット上の事典をいくつか調べてみましょう。
	事後学修	レポートの構造を実際のワードで書いてみましょう。
4 回	授 業 内 容	中身より見た目：レイアウトと表記法、文章配置
	事前学修	論文のレイアウトにはいくつかあります。どれかの論文を調べてみましょう。
	事後学修	どれが読みやすいか、いくつか論文をダウンロードして見比べましょう。
5 回	授 業 内 容	わかりやすい文章にする 3 原則：無限半切、重複禁止、執拗通読
	事前学修	3 章と 4 章を読んでおいてください。
	事後学修	わかりやすいとは何か、今日の授業の要点を箇条書きしてみましょう。
6 回	授 業 内 容	文献・資料の集め方①：二つの文献検索法、文献資料収集
	事前学修	文献検索は何度も繰り返します。まずは「やみくも」をやっておいてください。
	事後学修	やみくもで集めた論文の文献リストをみて同じ論文をピックアップしてください。
7 回	授 業 内 容	文献・資料の集め方②：アマゾン・国会・大学図書館の使いこなし
	事前学修	文献収集は、CiNii だけではなく、通常のネット検索をやってみてください。
	事後学修	第 1 回目の文献リストを作成してください。
8 回	授 業 内 容	文献・資料の整理方法：文献読込法、論文ノート、情報整理
	事前学修	資料のためのカードを用意してください。京大式カードといいます。
	事後学修	実際に文献からノートを作ってください。
9 回	授 業 内 容	論文（卒論）の執筆手順：執筆計画の立て方、論構成と章構成の方策
	事前学修	6 章を読んで、実際に自分の計画表をつくりましょう。
	事後学修	今回の授業を聞いてから、改めて自分の計画表を作り直しましょう。
10 回	授 業 内 容	注釈・引用・参考文献の示し方：近年型による示し方、巻末での表記
	事前学修	近年型と従来型の違いを、実際の論文で確かめておいてください。
	事後学修	JST のサイトで文献表記法の細かいところを確認しておいてください。
11 回	授 業 内 容	論文論（よい論文とは）：よい論文の 3 原則
	事前学修	7 章と 8 章を読んで、論文とはなにかを考えてみてください。
	事後学修	自分の今書いている論文をみましょう。3 原則にはまっていますか。
12 回	授 業 内 容	瀬戸際のテクニック：書式・論構成のテクニック
	事前学修	最後の「付論」二つを線を引きながら読んでおいてください。
	事後学修	自分の論文をプリントアウトして、校正をしてみましょう。

◆**教科書** 市販本『論文の書き方ーわかりやすい文章のために』 小笠原喜康著 ダイアモンド社 2007
 ※上記教科書は絶版のため、入手できない場合は参考書指定の市販本『最新版 大学生のためのレポート・論文術』を使用してください。

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康著 講談社現代新書 2018

◆**成績評価基準** 3回のチェックテスト（レポート）と最終論文で評価します。最終論文が出ていない場合は不可。なお最終論文は、形式、ルールをきちんと守っているかどうかで評価しますので、注意してください。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇日本大学を学ぶ—その120年の歴史—M（開講単位数:2単位）

担当者:鍋本 由徳

充当科目コード: B101S0（総合科目Ⅰ）
 B102S0（総合科目Ⅱ）
 B103S0（総合科目Ⅲ）
 B104S0（総合科目Ⅳ）
 B105S0（総合科目Ⅴ）
 B106S0（総合科目Ⅵ）

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1学年以上

◆**授業概要** 本講義の目的は、日本大学の歴史を、その創立から現代に至るまでを学修し、本学がいかにして日本最大の総合大学へと成長したかを知ることにある。ただし、日本大学という一組織の歴史をたどるのではなく、広く日本の近現代史の流れの中に本学を位置付け、本学の成長・発展の過程を通じて、近現代史を学ぶというのがねらいである。また、講義では教育機関としての大学のみでなく、時代ごとの学生生活の様相を、可能な限り学生の視点からとらえるように努める。

◆**学修到達目標** 1. 日本大学がどのような歴史をたどったのかを説明できるようにする。2. 近現代史の流れのなかで、社会の要請と日本大学との関係を説明できるようにする。3. 日本大学・日本大学通信教育部で学ぶ自身のあり方を主体的に考える姿勢を身につける。

◆**授業方法** メディアを視聴しながらノートを作成する。適宜実施される自己点検や理解度チェックで理解度を確認し、理解が不足していると判断した箇所は、視聴を増やし、ノートを補充する。

◆授業計画

1回	授業内容	第1章 本講義を学修するにあたって
	事前学修	シラバスを熟読し、本講義の流れと目的などを把握する。
	事後学修	各回でどのような内容を学ぶのか、目的と計画をまとめる。
2回	授業内容	第2章 日本大学120年の歩みⅠ
	事前学修	日本大学ホームページなどで明治時代から戦前・戦中までの日本大学を調べる。
	事後学修	時代の画期とともに大学がどう変化したのかをまとめる。
3回	授業内容	第3章 日本大学120年の歩みⅡ
	事前学修	日本大学ホームページなどで戦後の日本大学を調べる。
	事後学修	戦後の新制大学としての日本大学についての概要まとめる。
4回	授業内容	第4章 日本法律学校の誕生
	事前学修	幕末の不平等条約と日本の法整備の流れを調べる。
	事後学修	日本法律学校は何を目的につくられたのかをまとめる。
5回	授業内容	第5章 明治期の学園風景
	事前学修	明治時代の高等教育（今の「大学」）での学生生活について調べる。
	事後学修	日本法律学校の特徴についてまとめる。
6回	授業内容	第6章 大学令と日本大学
	事前学修	大正から昭和初期の日本の情勢と教育との関わりを調べる。
	事後学修	専門学校から大学へと昇格した日本大学の拡張状況をまとめる。
7回	授業内容	第7章 戦時体制下の学徒
	事前学修	太平洋戦争期の大学生生活について調べる。
	事後学修	軍隊と学生との関わりについて、日本大学での事例をまとめる。
8回	授業内容	第8章 高度経済成長と大学の大衆化
	事前学修	戦後教育改革の概要を調べる。
	事後学修	日本大学と学生との関係を調べ、学園紛争の前提が何かをまとめる。
9回	授業内容	第9章 大学紛争とその後の日本大学
	事前学修	1960年代の社会運動・学生運動がどのようなものだったかを調べる。
	事後学修	日本大学での紛争と他大学の紛争との質的な違いを考え、まとめる。
10回	授業内容	第10章 日本大学とスポーツ・文化
	事前学修	日本大学とスポーツとの歴史を日本大学ホームページなどで調べる。
	事後学修	保健体育審議会の歴史と現在の取り組みとの違いを考え、まとめる。
11回	授業内容	第11章 活躍する日大人
	事前学修	澤野民治・佐藤運雄・木村秀政・白川義員の出身学部と活動分野を調べる。
	事後学修	各人物が活動を通して、大学へどのような貢献をしたのかをまとめる。
12回	授業内容	第12章 通信教育部の歩み
	事前学修	日本における大学通信課程の設立事情を調べる。
	事後学修	自身が通信課程で何を学ぶのか、日本大学の学生としての学びを考える。

◆**教科書** 特になし。

◆**参考書(参考文献等)** 必要に応じてディスカッションボードで紹介する。

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答、ディスカッション）30％、理解度チェック30％、最終レポート試験40％。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇歴史学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:渡邊 浩史・馬淵 彰・鍋本 由徳・藤井 信行

充当科目コード : B11100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 1 学年以上

◆**授業概要** 本講義の目的は、日本とヨーロッパに生きた人物を通して、歴史学のあり方を学んでいきます。歴史学の学びの基本は、「過去の出来事の確認」と「過去のできごとを解釈し、時間と空間のなかに位置づける」ことです。さらに、自分自身のあり方を、さまざまな視点から考えていくことを目指す学問です。人物中心ですが、決して「伝記」ではなく、その人たちが生きた地域や時代について考えていきます。

◆**学修到達目標**

1. 人物を通して、その人々の生きた時代と地域について説明できるようにする。
2. 歴史学の方法の多様性を知り、事実を解釈する方法を身につける。
3. 細かい事実を知るだけではなく、人物や事件を歴史の中で位置付ける姿勢を身につける。

◆**授業方法** 本講義は通信教材『歴史学』の内容に沿っています。印刷教材は参考書としていますが、全体の事前学修として事前の読むと理解しやすくなります。ディスカッションボードが多く使われ、教員により質問が提示されます。

◆**履修条件** 過年度当該講義合格者は受講不可。

◆授業計画

1 回	授業内容	安倍晴明
	事前学修	安倍晴明と花山天皇の経歴などを調べる。(印刷教材第1章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
2 回	授業内容	一遍
	事前学修	一遍の経歴と、高野山・熊野の信仰を調べる。(印刷教材第2章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
3 回	授業内容	紀伊国牟婁郡の悪女 —「安珍・清姫」物語の原型と熊野—
	事前学修	『道成寺縁起絵巻』のあらすじを調べる。(印刷教材第3章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
4 回	授業内容	ジョン・ウェスレー牧師 —大宗教運動の産みの親—
	事前学修	英国国教会・メソジスト運動の成立、ウェスレーの経歴を調べる。(印刷教材第 16 章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
5 回	授業内容	E.アレヴィ博士 —イギリスとそのキリスト教に魅了されたフランス人学者—
	事前学修	イギリスの労働運動とアレヴィの経歴を調べる。(印刷教材第 17 章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
6 回	授業内容	ジョセフ・レイナー・スティーブンズ牧師 —心の革新を求めた労働運動家—
	事前学修	チャーティスト運動とスティーブンズの経歴を調べる。(印刷教材第 18 章)。
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
7 回	授業内容	オーストリア:エーレンタール外相(1906~12)とベルヒルト外相(1912~15) —攻撃的外交政策とヨーロッパ協調の破壊—
	事前学修	サラエボ事件・バルカン戦争について調べる。(印刷教材第 22 章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
8 回	授業内容	ドイツ: カイザー・ヴィルヘルム二世 —二正面戦争とヨーロッパ大陸戦争—
	事前学修	第一次大戦の開戦要因と、二正面作戦について調べる(印刷教材第 23 章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
9 回	授業内容	イギリス:グレイ外相(1905~16 年) —ロシア・フランスとの協調と対ドイツ宣戦—
	事前学修	第一次大戦期におけるイギリス・ロシア・フランスの関係を調べる(印刷教材第 24 章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
1 0 回	授業内容	徳川吉宗 —全国統治者の意識—
	事前学修	将軍吉宗の経歴と基本政策を調べる。(印刷教材第4章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
1 1 回	授業内容	大岡忠相 —その実像と虚像—
	事前学修	大岡忠相の経歴について調べる。(印刷教材第5章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。
1 2 回	授業内容	田中丘隅 —庶民に捧げた一生—
	事前学修	『民間省要』の性格、田中丘隅の経歴を調べる。(印刷教材第6章)
	事後学修	視聴教材で学んだ事実を踏まえて、ノートを整理する。

◆**教科書** なし

◆**参考書(参考文献等)** 通材『歴史学』通信教育部教材

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況(質疑応答, ディスカッション) 15%, 理解度チェック 35%, 最終レポート試験 50%。

◇法学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:松島 雪江・小野 健太郎・川又 伸彦

充当科目コード : B11500

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 1 学年以上

◆**授業概要** 社会規範としての法がどのように成り立っているのかを知り、法学の基礎的な概念や理論背景を把握しながら、憲法、刑法、民法などの法領域と関係させつつ、法的なものの考え方を身につけるための講義。

◆**学修到達目標**

- 1 憲法、刑法、民法をはじめとする法の基礎的な概念や理論背景を理解する。
- 2 そうした基礎概念に基づき、法が実社会でどのように生かされているのかを知る。
- 3 法に特有な「正しさを導く方法、正しさの考え方」を理解する。

◆**授業方法** メディア授業。該当箇所を視聴した上で、各章末の確認テスト、5 章ごとにある理解度チェックを受け、16 章「答案の作成技術」を十分把握した上で、最終レポートを作成する。

◆授業計画

	授 業 内 容	法と正義
1 回	事前学修	教科書 法学1の11章6～9節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
2 回	授 業 内 容	憲法の意義と基本原理
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第1章、第2章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
3 回	授 業 内 容	包括的人権と法の下での平等
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第6章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
4 回	授 業 内 容	思想・良心の自由と信教の自由
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第7章1～2節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
5 回	授 業 内 容	表現の自由
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第7章4節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
6 回	授 業 内 容	経済的自由と社会権
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第8章、第11章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
7 回	授 業 内 容	国民主権と参政権
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第3章1節、第12章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
8 回	授 業 内 容	平和主義
	事前学修	教科書 法学2(日本国憲法)第4章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
9 回	授 業 内 容	刑法の基本構造
	事前学修	教科書 法学1の6章をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	罪刑法定主義の役割が説明できるようにする。
10 回	授 業 内 容	刑事裁判のしくみ
	事前学修	教科書 法学1の10章[刑事裁判]をあらかじめ読んでおく
	事後学修	裁判員の立場で事実認定をして、有罪・無罪を理由づけて説明できるようにする。
11 回	授 業 内 容	民法のしくみ
	事前学修	教科書 法学1の7章1節、5 章 1 節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
12 回	授 業 内 容	民事裁判のしくみ
	事前学修	教科書 法学1の10章5～8節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
13 回	授 業 内 容	生活の中の民法Ⅰ・中古住宅やピカソの絵を購入したときのルール
	事前学修	教科書 法学1の7章1～2節、5 章 2 節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
14 回	授 業 内 容	生活の中の民法Ⅱ・日常生活上の事故と不法行為
	事前学修	教科書 法学1の7章1～2節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。
15 回	授 業 内 容	生活の中の民法Ⅲ・家族関係にまつわる法的問題
	事前学修	教科書 法学1の7章3節をあらかじめ読んでおく。
	事後学修	教科書を参考にしながらノートを作成・整理し、要点の理解に努めること。

◆**教科書** **通材** 船山泰範、川又伸彦、小野健太郎、松島雪江 『法学』

◆**参考書(参考文献等)**

市販本	山川一陽、船山泰範編著 『新法学入門』 弘文堂
市販本	芦部信喜著(高橋和之補訂) 『憲法 第6版』 岩波書店
市販本	船山泰範 刑法を学ぶための道案内』 法学書院

◆**成績評価基準** 全ての章の視聴を前提とした上で、理解度チェック (30%) と最終レポート (70%) により評価する。

◇政治学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:関根 二三夫

充当科目コード: B11700

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1 学年以上

◆**授業概要** 基礎教育としての講義を行います。立憲民主制の統治形態、権力分立と統治機構、議会政治と統治機構、わが国の統治機構として国会、内閣、裁判所、アメリカの大統領拒否権と議会拒否権など、主に制度的側面を中心に学びます。

◆**学修到達目標** 議会や大統領もしくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会や個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、統治機構を理解することにより、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、身近な現象であることを理解できるようにします。

◆**授業方法** 講義形式で行います。この講義においては、動画、静止画、音声などを活用し、また、理解度チェックを行うことにより、受講生の政治に関する多角的な理解を深めていきます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆授業計画

1 回	授業内容	立憲民主制の統治形態
	事前学修	テキストの第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
2 回	授業内容	権力分立と統治機構
	事前学修	テキストの第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
3 回	授業内容	議会政治と統治機構
	事前学修	テキストの第5章及び参考書(教養政治学)の第4章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
4 回	授業内容	わが国の統治機構—立法府(1)
	事前学修	テキストの第5章第1節及び参考書(憲法)の第6章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
5 回	授業内容	わが国の統治機構—立法府(2)
	事前学修	テキストの第5章第1節及び参考書(憲法)の第6章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
6 回	授業内容	わが国の統治機構—行政府(1)
	事前学修	テキストの第5章第2節及び参考書(憲法)の第7章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
7 回	授業内容	わが国の統治機構—行政府(2)
	事前学修	テキストの第5章第2節及び参考書(憲法)の第7章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
8 回	授業内容	わが国の統治機構—行政府(3)
	事前学修	テキストの第5章第2節及び参考書(憲法)の第7章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
9 回	授業内容	わが国の統治機構—司法府(1)
	事前学修	テキストの第5章第3節及び参考書(憲法)の第8章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
10 回	授業内容	わが国の統治機構—司法府(2)
	事前学修	テキストの第5章第3節及び参考書(憲法)の第8章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
11 回	授業内容	わが国の統治機構—司法府(3)
	事前学修	テキストの第5章第3節及び参考書(憲法)の第8章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。
12 回	授業内容	アメリカ合衆国の大統領拒否権と議会拒否権
	事前学修	テキストの第4章第2節及び参考書(教養政治学)第3章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートにまとめること。

◆**教科書** 通材 『政治学 B11700』(教材コード000279)

◆**参考書(参考文献等)**

市販本 『教養政治学』岩井奉信、黒川貢三郎、関根二三夫他、南窓社

通材 『憲法 K20100』(教材コード000261)

◆**成績評価基準** 試験60%、平常点40% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視します。

◇経済学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:前野 高章

充当科目コード: B11800

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1 学年以上

◆**授業概要** このメディア授業では、経済学の基本的な知識を習得するために、経済学の基礎理論や基本的な考え方を学修する。講義は主に、マクロ経済学に重点を置き、国民所得に関する基礎的な概念や経済政策について講義を行う。

◆**学修到達目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、マクロ経済学の基礎理論の学修をもとに、マクロ経済学の「基礎知識」と「経済政策や政府の役割」を修得することを目的とする。また、現実の経済のメカニズムを読み解き、経済の抱えている諸問題を経済学的に理解することができるようになることを目標とする。

◆**授業方法** インターネットを通じてメディア教材から学修をする。学修を円滑に進めるために、各回講義の要点をノートにまとめておくことを強く求める。経済学分野の科目を履修する予定のある学生は、専門科目等を受講する前に本講義を受講することを強く勧める。なお、「5 金融について」は、大幅に金融政策が変わり、内容的に古くなりました。したがって、この章は無視してください。テストにも出題しません。

◆授業計画

1 回	授業内容	経済学とは何か
	事前学修	テキスト, 参考書などから経済学とはどのような学問かを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
2 回	授業内容	経済学の研究の進め方
	事前学修	テキスト, 参考書などから経済学の分野について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
3 回	授業内容	資本主義経済と社会主義経済
	事前学修	テキスト, 参考書などから資本主義経済と社会主義経済の特徴を確認する。
	事後学修	第 1 回から第 3 回の内容をノートで復習をする。
4 回	授業内容	貨幣について
	事前学修	テキスト, 参考書などから貨幣についての考え方を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
5 回	授業内容	金融について
	事前学修	テキスト, 参考書などからこれまでの復習をする。
	事後学修	講義内容をもとに、これまでの講義の重要なポイントをノートに整理する。
6 回	授業内容	マクロ経済学
	事前学修	テキスト, 参考書などからマクロ経済学の定義を確認する。
	事後学修	第 4 回から第 6 回の内容をノートで復習をする。
7 回	授業内容	国民所得概念
	事前学修	テキスト, 参考書などから国民所得の定義を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
8 回	授業内容	産業部門間の循環
	事前学修	テキスト, 参考書などから経済表と産業連関表の意味を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
9 回	授業内容	ケインズ型消費関数
	事前学修	テキスト, 参考書などからケインズモデルを確認する。
	事後学修	第 7 回から第 9 回の内容をノートで復習をする。
1 0 回	授業内容	国民所得の決定
	事前学修	テキスト, 参考書などから国民所得の決定の箇所を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
1 1 回	授業内容	景気循環
	事前学修	テキスト, 参考書などから景気循環の意味について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
1 2 回	授業内容	経済政策
	事前学修	テキスト, 参考書などから政府の役割について確認する。
	事後学修	第 10 回から第 12 回の内容をノートで復習をし、これまでまとめたノートを復習し、各回での重要なポイントを整理する。

◆**教科書** 市販本 瀬川浩・田村和彦編著『経済学』桜門書房

◆**参考書(参考文献等)** 通材 『経済学』通信教育教材(教材コード000011)
市販本 伊藤元重『ミクロ経済学(第3版)』日本評論社, 2018年

◆**成績評価基準** 平常点60%(レポート形式の理解度チェック:40%, メディア授業の受講状況:20%)と最終試験40%による総合評価とする。ただし、最終試験を受けていることが単位修得の条件となる。

◇心理学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:池見 正剛

充当科目コード: B12100

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1 学年以上

◆**授業概要** 心理学は、心の働きを科学的に探究する学問であるが、最近では安易な心理テストや、科学的裏付けが不十分なインターネット上の記事が散見される。本授業では、心理学MAに続き、アカデミックな心理学の基礎知識を習得するとともに、人間の心理と行動を心理学の目で新たに捉え直すことを狙いとする。そして心理学の実験や現象を参考にしながら、心理学的な問題解決能力を習得することを目標とする。

◆**学修到達目標** 心理学の様々な領域の専門用語と理論の意味について、自分の言葉で説明できる。

心理学の知識をもとに、客観的、科学的に人間の行動を理解し、説明することができる。

心理学的という科学的な視点から、ある程度、現実の社会問題についての議論に参加できる。

生涯に渡って、心理学をはじめとした人文・社会科学などの学問に興味を持ち、自ら学ぶ態度を持ち続ける。

◆**授業方法** 心理学 MA と同様に、インターネットを利用して各自ノートを取りながら講義を受ける。また各章の最後にある自己点検と全 4 回の理解度チェックのテスト、および最終テストを必ず受けるようにする。また下記の参考書の欄に挙げる「心理学概説」を用意するなどして、授業計画の事前学修に指示された箇所を予習しておくことが望ましい。

メディア授業で学修するにあたっては、ポータルサイトの『お知らせ』に掲載されている「【メディア授業受講予定の皆様へ】メディア授業受講に際して」及び「メディア授業学修マニュアル」を再度確認し、十分理解してから学修に取り組んでほしい。また「受講期間」や「提出期限」などが設定されているので、「お知らせ」の「授業計画」は、プリントアウトなどして、常に確認できるようにしておくこと。

◆授業計画

1 回	授業内容	意識:意識とは、無意識、睡眠、瞑想、催眠
	事前学修	「心理学概説」の p.135～136 を読んでおく事が望ましい。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
2 回	授業内容	学習:学習とは、学習の理論、行動主義的連合理論、認知一体化理論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.35～54 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
3 回	授業内容	動機づけ:動機づけの理論、誘因と動機付け、ホメオスタシスと動因
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.128～131 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック 1 のテストを受ける。
4 回	授業内容	情動 1:情動とは、認知的評価と情動
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.117～120 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
5 回	授業内容	情動 2:主観的経験と情動、思考・行動傾向、情動と認知、身体的変化と情動、情動調整
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.120～124,127,128 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
6 回	授業内容	情動 3:表情と情動、表情の基本的カテゴリー、生物学的要因との関係、文化差、他
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.125～127 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック 2 のテストを受ける。
7 回	授業内容	知能:知的能力の測定、最近の知能理論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.108～112 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
8 回	授業内容	パーソナリティ 1:パーソナリティの測定、特性論的アプローチ、精神分析的アプローチ
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.135～139, 142～145 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
9 回	授業内容	パーソナリティ 2:行動主義的アプローチ、認知的アプローチ、人間性アプローチ
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.146～154 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック 3 のテストを受ける。
1 0 回	授業内容	社会的影響:他者の存在、同調、権威への服従
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.181～199 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
1 1 回	授業内容	ストレス、健康、コーピング:ストレスの定義、ストレスとなる出来事の特徴、ストレスに対する心理的反応、他
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.243～262 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検のテストを受ける。
1 2 回	授業内容	心の病:異常の定義、異常行動の分類、不安障害、気分障害、統合失調症
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、「心理学概説」の p.223～242 をよく読んでおく。
	事後学修	学習内容をノートにまとめ理解した上で自己点検と理解度チェック 4 のテストを受ける。 最終テストに向けて全講義内容を振り返る。

◆**教科書** 指定しない

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 心理学概説―心理学のエッセンスを学ぶ― 巖島行雄 横田正夫 編 啓明出版

◆**成績評価基準** 最終試験 (60%)、理解度チェック (40%)。これらの点数を視聴履歴と照らし合わせながら総合的に評価する。

◇英語 I MB(開講単位数:1単位)

担当者:猪野 恵也

充当科目コード: C10100

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 1 学年以上

◆**授業概要** 話す、聞く、書く、読むの四技能のうち大学での学修においてはどんな学問ジャンルであれ、特に英文読解力が求められる。そこでまず重要な英文法事項を復習あるいは十分修得し、その上で英文法を駆使しながら短編を読む。また叙情的な表現が多いので英語そのものを吟味し味読する。

前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期及び後期の連続受講が望ましい。

- ◆**学修到達目標**
1. 重要な英文法の基礎を十分修得できる。
 2. 短編を読みながら、英文法の知識を駆使し、英文の構造を把握できるようになる。
 3. 叙情的、文学的英語表現を味読できるようになる。

◆**授業方法** メディア、講義用ディスカッションボード、質疑応答を利用した英文法の学修とテキスト読解。

◆授業計画

1 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.29-p.30.
	事前学修	予め英文法書にて各文法事項を確認し、単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
2 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.30-p.32.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
3 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.32-p.33.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
4 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.33-p.34.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
5 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.35.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
6 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.36-p.37.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
7 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.37-p.38.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
8 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.38-p.39.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
9 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.39-p.40.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
10 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.40-p.41.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
11 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.41-p.42.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。
12 回	授業内容	The Little Willow 読解 p.42-p.43.
	事前学修	単語の意味等を辞書で調べ、注釈も参考にして英文に目を通しておく。
	事後学修	授業内容に即して英文法を復習する。意味の区切りに注意しながら音読をする。

◆**教科書** 通材 「英語 I メディア授業用教材」 C10100 通信教育教材 (教材コード000019)

市販本 各自の英語力に合った英文法書(一冊で良いので中型のものが望ましい)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 「プログレッシブ英和辞典」(小学館)、「ジーニアス英和辞典」(大修館書店)等中型で例文が豊富な英和辞書。

◆**成績評価基準** メディア授業の受講状況(各回を必ず2回以上視聴すること)と2回の試験(レポート試験)により総合的に評価する。

◇英語ⅡMB(開講単位数:1単位)

担当者:鈴木 孝

充当科目コード:C10200

配当学科:全学科・専攻

配当学年:1学年以上

◆**授業概要** Tennessee Williamsの“Happy August the Tenth”を12のセクションに分け、それぞれのセクションの英文を用いて、名詞、動詞、形容詞などの品詞の区別、文型や修飾関係などの文構造、およびその他の文法、語法についての細かな説明を繰り返し行っていく。その理解を深めるために辞書の利用を随時促していく。

◆**学修到達目標** 1. 英文の構造を意識し、その構造通りに英文を読んでいく練習を積むことによって、「初めて目にする英文でも辞書さえあれば正確に読める力」を身につけることができる。
2. その力を利用して文学作品を鑑賞する楽しみを感じることができる。

◆**授業方法** メディアを利用したテキスト読解。

◆**授業計画**

1回	授業内容	テキスト 29 ページ 1 行目から 30 ページ 5 行目まで。過去完了などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
2回	授業内容	テキスト 30 ページ 6 行目から 31 ページ 21 行目まで。前置詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
3回	授業内容	テキスト 31 ページ 22 行目から 32 ページ 28 行目まで。代名詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
4回	授業内容	テキスト 33 ページ 1 行目から 34 ページ 11 行目まで。第 4 文型の用法などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
5回	授業内容	テキスト 34 ページ 12 行目から 35 ページ 24 行目まで。後置形容詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
6回	授業内容	テキスト 35 ページ 25 行目から 37 ページ 11 行目まで。強調の用法などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
7回	授業内容	テキスト 37 ページ 12 行目から 39 ページ 4 行目まで。熟語などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
8回	授業内容	テキスト 39 ページ 5 行目から 40 ページ 19 行目まで。関係詞の省略などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
9回	授業内容	テキスト 40 ページ 20 行目から 42 ページ 7 行目まで。疑問詞などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
10回	授業内容	テキスト 42 ページ 9 行目から 43 ページ 26 行目まで。形式主語などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
11回	授業内容	テキスト 43 ページ 27 行目から 45 ページ 3 行目まで。第 3 文型の用法などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。
12回	授業内容	テキスト 45 ページ 4 行目から 46 ページ 11 行目まで。比較級などの確認。
	事前学修	品詞や文型の知識を確認しておくこと。
	事後学修	学習した文構造を使って、英文和訳を試みること。

◆**教科書** **教材** 『英語Ⅱ C10200』通信教育教材 (教材コード000020)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 英和辞典 (語法の説明や例文が豊富なもの)
市販本 文法書 (各自使いやすいと思えるもの)

◆**成績評価基準** メディア授業の受講状況 (ディスカッションボードへの書き込み等含む・10%)、理解度チェック (1～4 各10%、計40%)、及びインターネットを利用した試験 (レポート形式・50%) による総合的な評価。

◇英語ⅢMB(開講単位数:1単位)

担当者:真野 一雄

充当科目コード:C10300

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆**授業概要** Tolkienの小説という読み物を通して、正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれている。また、行間の意味を取ることで英語で意味を解釈する構成になっている。

◆**学修到達目標** 文法事項をよく理解し、正しい構文解釈ができて正確な日本語訳ができるようになる。合わせて小説の面白さを鑑賞できるようにする。

◆**授業方法** 文法事項をよく理解し、正しい構文解釈ができて正確な日本語訳ができるようになる。合わせて小説の面白さを鑑賞できるようにする。

◆授業計画

1回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 1 (p. 11, l. 6 – p. 12, l. 26)
	事前学修	5 文型を確認しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 2 (p. 12, l. 27 – p. 14, l. 17)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 3 (p. 14, l. 18 – p. 16, l. 4)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 4 (p. 16, l. 5 – p. 17, l. 19)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
5回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 5 (p. 17, l. 20 – p. 19, l. 17)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 6 (p. 19, l. 18 – p. 21, l. 16) + 報告課題1 提出
	事前学修	1 回から今回まで学修したところの復修をし、英文構造をよく理解する。
	事後学修	1 回から今回まで学修したところの復修をし、英文構造をよく確認する。
7回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 7 (p. 21, l. 18 – p. 23, l. 17)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 8 (p. 23, l. 18 – p. 25, l. 20)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 9 (p. 25, l. 21 – p. 27, l. 12)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 10 (p. 27, l. 13 – p. 29, l. 17)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 11 (p. 29, l. 18 – p. 31, l. 18)
	事前学修	前回学修したところの復修をする。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容	<i>Leaf by Nigle</i> part 12 (p. 31, l. 20 – p. 33, l. 27) + 報告課題2 提出
	事前学修	7回から今回まで学修したところの復修をし、英文構造をよく理解する。
	事後学修	7回から今回まで学修したところの復修をし、英文構造をよく確認する。

◆**教科書** 通材 『英語Ⅲ C10300』通信教育教材(教材コード000021) なくても受講可

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『英文法解説』(改訂3版) 江川泰一朗著(金子書房)

◆**成績評価基準** 2回の報告課題の提出を条件に、その2回の報告課題に受講(視聴)回数を加味して評価する。

◇英語IVMB(開講単位数:1単位)

担当者:市川 泰弘

充当科目コード:C10400

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 英語会話にしても英作文にしても、重要となるのは表現力であり。例えばHe was served on hand and foot. の hand and footが「必要なもの全て」を意味することをどれだけの学生が知っているだろうか。この講義ではスピーキング・ライティングに重要な基本事項を確認しながら、英語の母国語話者ではない日本人が間違いやすい表現に触れ、英語のNative speakersが日常使う表現のニュアンスの違いを理解し、最も使用頻度が高い表現を学習していく。

◆**学修到達目標** この講義の目標は、1) 英語を母語としない日本人が間違いやすい表現を理解し、その使い方・ニュアンスの違いを理解することによって自然な英語表現を習得し、使えるようになることができる、2) 最も使用頻度が高く、アカデミックライティングに使用する表現を理解・習得し、使えるようになることができる、3) パラグラフライティングの基本を理解し、さまざまなパラグラフが書けるようになることである。

◆**授業方法** テキストの各課の最初にあるダイアログを読み、そこで扱われる表現を確認した後、メディア授業を受けてください。エクササイズを行い、解説を聞いた後にテキストの Common Errors を読み直し、間違えた表現をまとめるようにしてください。パラグラフライティングについてはメディア授業でその書き方を学習した後、タスクシートで演習を行い、パラグラフの書き方の基本をチェックするようにしてください。

◆**授業計画**

1 回	授業内容	間違いやすい名詞の使い方[1]
	事前学修	Unit 7 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
2 回	授業内容	パラグラフの基本・指示を与えるパラグラフの書き方:過程と順序を知る
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet の予習をする。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
3 回	授業内容	間違いやすい名詞の使い方[2]
	事前学修	Unit 8 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
4 回	授業内容	描写をするパラグラフの書き方:人や物を描写する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
5 回	授業内容	間違いやすい形容詞の使い方[1]
	事前学修	Unit 9 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
6 回	授業内容	主張を述べるパラグラフの書き方:主張を述べ、展開する
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
7 回	授業内容	間違いやすい形容詞の使い方[2]
	事前学修	Unit 10 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
8 回	授業内容	比較と対照を使ったパラグラフの書き方
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
9 回	授業内容	間違いやすい副詞の使い方
	事前学修	Unit 11 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
1 0 回	授業内容	原因と結果についてのパラグラフの書き方
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。
1 1 回	授業内容	その他の間違いやすい表現
	事前学修	Unit 12 のエクササイズを予習し、それぞれの意味を理解すること。
	事後学修	Common Errors の説明で復習をする。
1 2 回	授業内容	私信とビジネス・レターの書き方
	事前学修	Further Study を予習し、Task Sheet を完成させること。
	事後学修	Task Sheet の復習を行い、重要表現をまとめること。

◆**教科書** 通材 『英語IV C10400』 通信教育教材(教材コード000371)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 Longman Dictionary of Common Errors

◆**成績評価基準** メディア授業の受講状況を確認しながら、2回のレポートを中心に総合的に評価を行う。従って、課題レポートはその提出内容をしっかり理解し、提出することが必須条件となる。

◇英語基礎 MB(開講単位数:1単位)

担当者:小澤 賢司

充当科目コード : C10600

配 当 学 科 : 全学科・専攻(但し、文学専攻(英文学)を除く)

配 当 学 年 : 1 学年以上

◆**授業概要** 本授業では、今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」を学びます。後期にあたる「英語基礎MB」では、英語の「文法」を中心に学修していきます(MBからの受講でも問題ありません)。いかなる学修においても「基礎・基本」はとても重要です。これを疎かにするとその後の「伸び」はあまり期待できません。本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項および英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分に留意して学修に臨んでください。

◆**学修到達目標** 無機質な暗記から脱却し、理解中心の学修をおこなうことで、英語を「使えるようにする」ことを目標にしています。よって、学修した内容を「実際に活用する」ことを心がけてください。本授業では、「徹底した復習」が求められます。ここでいう「徹底した復習」とは、前回の復習ではなく、前回までの復習を指します。例えば、第5回の授業の次週には、第1回から第5回まで全ての内容の復習が必要ということです。

◆**授業方法** 授業計画にある各品詞を1つ1つ丁寧に解説し、それらが用いられた英文とともに学修することで適切な理解を促します。質問等は「ディスカッションボード」もしくは「質疑応答」にて回答しますので、そちらに質問を投稿してください。必要な情報(説明・英文等)は適宜ノートに取るようにしましょう。

◆**履修条件** 昼間スクーリング「英語基礎」(小澤担当)とは積み重ね不可。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	第1章 「品詞」と「文法」／現在形 その1
	事 前 学 修	本授業のシラバス全体を一読しておくこと。
	事 後 学 修	「品詞」と「文法」の違い、さらには「現在形」の基本を正しく理解しておくこと。
2 回	授 業 内 容	第2章 現在形 その2／過去形
	事 前 学 修	第1回で学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「現在形」の応用、ならびに「過去形」を正しく理解しておくこと。
3 回	授 業 内 容	第3章 進行形
	事 前 学 修	第2回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「進行形」の働きを正しく理解し、「現在形」との違いを理解しておくこと。
4 回	授 業 内 容	第4章 命令文／英文問題／Q and A
	事 前 学 修	第3回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「命令文」の働きを正しく理解しておくこと。英文を繰り返し読んでおくこと。
5 回	授 業 内 容	第5章 単語学修に関するあの話この話
	事 前 学 修	第4回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	単語学修について正しく理解しておくこと。
6 回	授 業 内 容	第6章 疑問詞疑問文
	事 前 学 修	第5回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「疑問詞疑問文」について正しく理解しておくこと。
7 回	授 業 内 容	第7章 目的語と補語(文型) その1
	事 前 学 修	第6回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「目的語と補語」の基本を正しく理解しておくこと。
8 回	授 業 内 容	第8章 目的語と補語(文型) その2／Q and A
	事 前 学 修	第7回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「文型」について正しく理解しておくこと。
9 回	授 業 内 容	第9章 比較
	事 前 学 修	第8回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「比較」について正しく理解しておくこと。
1 0 回	授 業 内 容	第10章 リスニングに関するあの話この話 その1
	事 前 学 修	第9回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	リスニング学修の注意点等を再度確認しておくこと。
1 1 回	授 業 内 容	第11章 リスニングに関するあの話この話 その2
	事 前 学 修	第10回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	リスニング練習問題を復習しておくこと。
1 2 回	授 業 内 容	第12章 受動態／Q and A
	事 前 学 修	第11回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「受動態」の働きを正しく理解しておくこと。
1 3 回	授 業 内 容	第13章 現在完了 その1
	事 前 学 修	第12回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「現在完了」の基本を正しく理解しておくこと。
1 4 回	授 業 内 容	第14章 現在完了 その2／英文問題
	事 前 学 修	第13回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	「現在完了」の応用を正しく理解しておくこと。英文を繰り返し読んでおくこと。
1 5 回	授 業 内 容	第15章 間接疑問文／ミニ英文問題
	事 前 学 修	第14回までに学修した内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	再度、全ての学修内容を復習しておくこと。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)**

市販本
市販本
市販本

『英文法ビフォー&アフター(普及版)』 豊永彰著 南雲堂

『一億人の英文法』 大西泰斗・ポール・マクベイ著 東進ブックス

『ジーニアス総合英語』 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館

◆**成績評価基準** 受講状況、理解度チェック、最終レポート等で総合的に評価します。報告課題及び最終レポートはMicrosoft Office Wordで作成し、提出すること。表計算ソフトやメモ帳等で作成(提出)しないこと。

◇保健体育講義 I M(開講単位数:1単位)**担当者:高橋 正則・水落 文夫**

充当科目コード : H10100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 1 学年以上

◆**授業概要** 近年, 超高齢化社会を向かえているわが国の平均寿命は, 年々上昇しているものの, 健康寿命との差は依然として縮まらない傾向が続いている。平均寿命と健康寿命の差は約10年前後であり, その差を埋めるためには, 自立して生活できる健康な身体を積極的に獲得する必要がある。そこで, 健康・体力に関する情報に日頃から関心を向け, 自身の健康維持・増進を目指した生活習慣を考える。

◆**学修到達目標** 生涯を通じて最も大切な健康とは何か, また, 健康・体力の維持増進のために何が必要かについて, 基本的な知識を習得することで, 自らの生活習慣に結びつけることができるようになる。

◆**授業方法** この授業は, 資料をスクリーンに提示しながら, 講義形式で進める。

◆授業計画

1 回	授業内容	現代社会と健康 : 現代社会と健康の関連を説明する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
2 回	授業内容	コミュニケーションスキル : 現代社会におけるコミュニケーションスキルの重要性を解説する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
3 回	授業内容	体力の概念 : 体力の構成を行動体力と防衛体力の観点から説明する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
4 回	授業内容	オリンピズム : オリンピックに対する考え方やオリンピック教育の具体的内容を説明する。試験。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 講義全体の内容を整理し, 理解しておくこと。
5 回	授業内容	運動・スポーツの効果 : 運動やスポーツが心身に及ぼす影響を解説する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
6 回	授業内容	運動による疲労 : 身体活動が与える疲労を様々な指標で捉え, その影響を説明する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
7 回	授業内容	休養の実態と意義 : 休養の必要性や効果的な取り方を解説する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。
8 回	授業内容	運動学習 : 運動を学習するための理論を説明する。
	事前学修	事前に新聞やニュースなどのメディアを通して, 関連情報を得ておくこと。
	事後学修	配布資料をまとめ, 理解しておくこと。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 『健康・スポーツ教育論』 日本大学文理学部体育学研究室編 八千代出版

◆**成績評価基準** 授業への取り組みおよびテストによって総合的に評価する。

◇憲法 MB(開講単位数:2単位)

担当者:名雪 健二

充当科目コード: K20100

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 法学部は1 学年以上。その他の学部は2 学年以上。

◆**授業概要** 後期では、国会（国会の性格、国会の活動、国会の権能など）、内閣（内閣の性格、内閣の組織、内閣総理大臣の地位および権能など）、裁判所（司法権の概念と帰属、最高裁判所の構成と権能など）といった統治機構が中心となるが、財政や地方自治についてもみていく。

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、われわれが国家生活をしていく上で憲法を知ることが、極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何か知ることができ、また、憲法判例をみることで生きた憲法を理解することができ、さらに、憲法規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の各条項を解釈することによって、その意味内容を明らかにしていくが、それと同時に、生きた憲法を理解するために、判例もあげる。本講義は、メディアを利用しての授業であることから、教科書および参考書等による自己学習の併用となる。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	国会(国会の性格)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、憲法第41条にいう最高機関と立法機関の意味をよく理解しておくこと。また、二院相互の関係についてもまとめておくこと。
2 回	授 業 内 容	国会(国会議員の地位、国会議員の特典)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、不逮捕特権と免責特権について、それぞれ問題点があるのでまとめておくこと。
3 回	授 業 内 容	国会(国会議員の権能、国会の活動)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、衆議院の解散では、解散権の主体と根拠規定、また、解散の原因についてよく理解しておくこと。さらに、定足数、表決数、一事不再議について理解しておくこと。
4 回	授 業 内 容	国会(国会の権能、議院の権能)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、法律の制定手続、また、議院の自律的事項をあげて、それぞれの問題点をまとめておくこと。さらに、国政調査権の意義と性格をまとめた上で、範囲と限界についてよくまとめておくこと。
5 回	授 業 内 容	内閣(内閣の性格、内閣の組織)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、行政権の帰属が何を意味するのか、また、内閣の組織と内閣総理大臣の地位および権能についてよくまとめておくこと。
6 回	授 業 内 容	内閣(内閣の総辞職、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、内閣総辞職の意義と内閣が総辞職しなければならない場合をよくまとめておくこと。また、内閣の権能について、国会の承認をえることができなかった条約の効力について、よく理解しておくこと。さらに、内閣の責任の内容の意味についてまとめておくこと。
7 回	授 業 内 容	裁判所(裁判所の性格)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、司法権の概念と帰属についてまとめておくこと。とりわけ、司法権の帰属のところを理解しておくこと。
8 回	授 業 内 容	裁判所(最高裁判所、最高裁判所の権能、違憲審査権、最高裁判所の審理及び裁判)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、規則制定権では、規則制定権の趣旨、規則制定権の範囲についてまとめておくこと。また、最高裁判所規則と法律との関係についてよく理解しておくこと。さらに、違憲審査権では、違憲審査権の意義を踏まえた上で、違憲審査権の性格および違憲審査の対象について、それぞれ学説が対立しているので、それを整理し、判例もあわせてまとめておくこと。
9 回	授 業 内 容	裁判所(下級裁判所、司法権の独立、裁判の公開)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、下級裁判所裁判官の任命と司法権の独立(裁判官の職権の独立と裁判官の身分保障)についてよくまとめておくこと。
1 0 回	授 業 内 容	財政(財政に関する原則、予算、予算執行の監督)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、租税法律主義、予算の性格と成立についてまとめておくこと。
1 1 回	授 業 内 容	地方自治(地方自治の概念、地方自治の基本原則、地方公共団体、地方公共団体の権能、地方自治特別法)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。とくに、地方自治の本旨、地方公共団体の権能についてまとめておくこと。
1 2 回	授 業 内 容	憲法改正(憲法改正の概念、憲法改正の手続、憲法改正の限界)
	事 前 学 修	講義の該当箇所をよく視聴しておくこと。
	事 後 学 修	視聴して重要なところを整理しておくこと。憲法改正について、憲法改正とはいかなる行為であるのかを、憲法の廃棄、憲法の廃止などと区別して理解しておくこと。また、内閣が、憲法改正案を提出することができるかどうか理解しておくこと。さらに、憲法改正に限界があるのかどうかについてもまとめておくこと。

◆**教科書** 市販本 『日本国憲法』 名雪健二 有信堂

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『憲法第6版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店

◆**成績評価基準** 成績は、試験を中心に、授業の受講状況と理解度チェック（すべての提出が前提であり、提出がない場合は減点となる。）を加味して、総合的に評価する。

◇民法 I MB(開講単位数:2単位)

担当者:根本 晋一

充当科目コード: K20200

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 法律学科は1 学年以上。他の学科・学部は2 学年以上。

◆**授業概要** 民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、に関する争点（論点）について学修する。なお、シラバスについては参考なので、授業開始時に実際のシラバスを確認すること。

本講座を受講する前に、民法 I MAを受講し、民法総則の体系を理解しておくことを強く推奨する。

◆**学修到達目標** 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系について復習したうえで、基本的な争点（論点）の所在を知り、その内容と議論の実益を理解する。

◆**授業方法** 講義形式を採用する。視聴することなくログイン履歴のみを残さないこと。最終試験受験の前提として、理解度チェック問題を必ず解くこと。各学生の受講状況は、こちらから確認できる。

◆授業計画

1 回	授業内容	【序論】民法の学び方
	事前学修	必要なし
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2 回	授業内容	民法の全体像
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3 回	授業内容	民法総則の全体像（ここまでは、民法 I MA「民法総則の体系」と同内容）
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
4 回	授業内容	【本論】争点集 1 私権行使の制限 一般条項などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
5 回	授業内容	争点集 2 私権の主体 自然人 意思能力 行為能力などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
6 回	授業内容	争点集 3 制限行為能力者制度 法人などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
7 回	授業内容	争点集 4 私権の客体 「物」概念などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
8 回	授業内容	争点集 5 意思表示 意思理論 意思主義と表示主義などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
9 回	授業内容	争点集 6 法律行為 意思の不存在などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
1 0 回	授業内容	争点集 7 意思表示の瑕疵 公序良俗違反 強行規定違反などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
1 1 回	授業内容	争点集 8 代理 無効と取消しなどに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
1 2 回	授業内容	争点集 9 時効などに関する論点の解説
	事前学修	前回の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み

◆**教科書** 指定しない。

◆**参考書(参考文献等)** 民法 I（通信教育教材）など。その他、授業内で紹介をする。

◆**成績評価基準** 全12回の授業をすべて受講していること。理解度チェック問題をすべて解いていること。視聴状況、理解度チェック、最終試験の総合点により評価する。

◇民法ⅡMB(開講単位数:2単位)

担当者:根本 晋一

充当科目コード: K30100

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 2学年以上

◆**授業概要** 物権法の後半部分である担保物権、すなわち、典型担保物権としての、法定担保物権（留置権 先取特権）と約定担保物権（質権 抵当権）、非典型担保物権としての譲渡担保、所有権留保などについて学修する。

民法ⅡMB（担保物権法）は、民法ⅡMAの続編である。ゆえに、これから民法Ⅱを履修する学生は、山川民法ⅡMAを履修してから、民法ⅡMBを履修することを強く推奨する。順序を逆転すると、理解に差し支えを生じる。

◆**学修到達目標** 1 民法学における、担保物権法の体系的な位置付を理解する。2 担保物権法の体系（全体像）を理解する。3 1, 2の理解・修得を前提として、担保物権法に関する基本論点を理解する。

◆**授業方法** 前回講義に相当する部分の、添付レジュメと自分のノートの記述内容をよく復習してから、次回講義に臨むこと

◆授業計画

1回	授業内容	担保物権法総論
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
2回	授業内容	担保物権の種類と機能
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
3回	授業内容	担保物権の通有性
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
4回	授業内容	留置権①
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
5回	授業内容	留置権①
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
6回	授業内容	同時履行の抗弁権と留置権
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
7回	授業内容	質権
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
8回	授業内容	先取特権
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
9回	授業内容	抵当権①
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
10回	授業内容	抵当権②
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
11回	授業内容	抵当権③
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
12回	授業内容	法定地上権
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
13回	授業内容	抵当不動産の第三者取得者の地位
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
14回	授業内容	譲渡担保
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習
15回	授業内容	仮登記担保
	事前学修	テキスト該当箇所の読み込み
	事後学修	テキストとノートの復習

◆**教科書** 本講義時に添付されるレジュメ

市販本『担保物権法 第3版』 山川一陽著 弘文堂

◆**参考書(参考文献等)** なし

◆**成績評価基準** 全15回の講義を受講していること（ログにて確認をする）。全回受講済を前提として、理解度チェック（全回受験すること。ログにて確認をする）と、最終試験の総合点により成績評価をする。

◇刑法 I MB(開講単位数:2単位)

担当者:野村 和彦

充当科目コード: K20300

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 法律学科は1 学年以上, その他の学科・専攻は2 学年以上

◆**授業概要** この講義では、刑法 I MA で修得した刑法総論の基礎知識を生かして、刑法総論をさらに奥深く学んでいく。刑法の存在理由はどこにあるのかを、各項目を通じて考えていきたい。

◆**学修到達目標** 次の三点を目標とする。①刑法の存在理由はどこにあるのかを自分の言葉で説明できるようにする。②事案の中から刑法総論上の問題点を発見する能力を身につける。③反対説を意識しながら、私見を展開できるようにする(刑法学は、法律学の中でも、見解が鋭く対立している学問です)。

◆**授業方法** 六法を手元に置き、講義を聴講してほしい。漫然と見るのではなく、事前学習でよく理解できなかった点を念頭に置き聴講すること。各項目のまとめテストにも、しっかりと取り組んでほしい。参考書はかなり詳しいので、教科書と併用すること。

◆授業計画

1 回	授業内容	構成要件該当性、違法性、有責性、正当防衛
	事前学修	序章、第 7 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	犯罪論の役割とは何か説明せよ。
2 回	授業内容	緊急避難、法令行為、正当行為
	事前学修	第 7 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	正当防衛と緊急避難の違いは何か説明せよ。
3 回	授業内容	超法規的違法性阻却事由、自救行為
	事前学修	第 8 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	超法規的違法性阻却事由を考えることは罪刑法定主義に反するか。
4 回	授業内容	被害者の承諾、安楽死、尊厳死
	事前学修	第 8 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	積極的安楽死の要件と自己決定権とはどのような関係にたつか。
5 回	授業内容	有責性の本質、心神喪失
	事前学修	第 9 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	他者に実害を与えた以上、刑事責任がとられるべきである、という見解を論評せよ。
6 回	授業内容	行為と責任能力の同時存在の原則、刑事未成年
	事前学修	第 9 章、第 10 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	原因において自由な行為について説明せよ。
7 回	授業内容	法律の錯誤、違法性の意識
	事前学修	第 10 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	法律の錯誤が事実の錯誤よりも厳しく取り扱われる理由は何か。
8 回	授業内容	期待可能性、犯罪の成立要件のまとめ
	事前学修	第 10 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	期待可能性はどのような理論か説明せよ。
9 回	授業内容	基本原則の確認、罪刑法定主義
	事前学修	第 11 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	罪刑法定主義について説明せよ。
1 0 回	授業内容	責任主義
	事前学修	第 11 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	責任主義について説明せよ。
1 1 回	授業内容	刑罰の内容と本質
	事前学修	第 12 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	刑罰の種類について説明せよ。
1 2 回	授業内容	刑罰が克服すべき課題
	事前学修	第 12 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	死刑について私見を展開せよ。
1 3 回	授業内容	罪数
	事前学修	第 13 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	犯罪の個数を論ずる意義はどこにあるか。
1 4 回	授業内容	刑の執行
	事前学修	第 14 章を読み、わからないところをメモしておく。
	事後学修	行為者に宣告される刑はどのような過程を経て決められるか。
1 5 回	授業内容	刑の執行後、裁判員裁判と刑法、21 世紀における刑法の課題
	事前学修	これまでの学習を通じて、刑法の存在理由について私見をまとめておく。
	事後学修	講義担当者の見解について検討せよ。

◆**教科書** 市販本 『刑法の礎・総論』 船山泰範著 法律文化社

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『講義刑法学・総論(第2版)』 井田良著 有斐閣

◆**成績評価基準** テストによって評価する。

◇刑法ⅡMB(開講単位数:2単位)

担当者:設案 裕文

充当科目コード:K30800

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆**授業概要** 刑法ⅡMAの授業に引き続き、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪について、基礎的知識の習得とこれらの罪に対応する各規定の解釈・適用のための視座の構築を目指して、行う授業である。個人的法益に対する罪と社会的法益・国家的法益に対する罪とでは様相を異にし、後者においては法益の範囲がより曖昧となり、処罰範囲がより拡張される傾向がある。罪刑法定主義の観点からの検討が強く求められるのが社会的法益・国家的法益に対する罪の規定の解釈であるといえる（このあたりのことは第1回の授業で説明する）。

本年度以前のメディア授業「刑法ⅡMB」との積み重ねは不可（教材等が同一のため）。

◆**学修到達目標** 1. 刑法各論、とくに社会的法益・国家的法益に対する罪（後記教科書『法学刑法2各論』91～176頁参照）についての基礎的知識を習得する。

2. 社会的法益・国家的法益に対する罪に関する各規定の解釈・適用について、判例の考えを暗記するのではなく、条文の文言と趣旨を基に自己の見解を形成し、論述できるようになる。

◆**授業方法** 後記教科書を基にした授業を行い、後記参考書の参照を要する箇所は授業内で言及する。履修者において、各回の授業終了後、「自己点検」の短答式問題に解答して基礎的知識等を確認していただく。また5回分の授業終了後、「理解度チェック」の短答式問題に解答していただく。全授業終了後、最終試験のレポートを作成し、期限までに提出していただく。

◆**授業計画**

1回	授業内容	最初に、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪を学ぶにあたって注意すべき事項を説明する。次いで、公共の安全に対する罪のうち、騒乱の罪、放火及び失火の罪について説明する。
	事前学修	教科書91～101頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第1章」の問題にチャレンジする。
2回	授業内容	公共の安全に対する罪のうち、出水及び水利に関する罪、(公衆の交通の安全に対する罪ともいえる)往来を妨害する罪、(公衆の健康に対する罪ともいえる)あへん煙に関する罪及び飲料水に関する罪について説明する。
	事前学修	教科書102～114頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第2章」の問題にチャレンジする。
3回	授業内容	まず、公共の信用に対する罪について総説する。次に、通貨偽造の罪について説明する。最後に、文書偽造の罪の基本的事項(文書の意義等)について説明する。
	事前学修	教科書114～120頁及び配布資料③の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第3章」の問題にチャレンジする。
4回	授業内容	第3回の授業に続いて、文書偽造の罪の基本的事項について説明する。とくに、偽造(有形偽造、無形偽造)の意義については、よく理解する必要がある。
	事前学修	教科書120～126頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第4章」の問題にチャレンジする。
5回	授業内容	個々の文書偽造の罪について説明する。有形偽造を処罰するものに重点を置く。
	事前学修	教科書126～130頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第5章」の問題にチャレンジする。また、1～5回の授業内容を確認した上、「理解度チェック1」の問題に答える。
6回	授業内容	第5回の授業に続いて、個々の文書偽造の罪を説明する。無形偽造を処罰するものに重点を置く。有価証券偽造の罪について説明する。
	事前学修	教科書130～133頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第6章」の問題にチャレンジする。
7回	授業内容	支払用カード電磁的記録に関する罪、印章偽造の罪、不正指令電磁的記録に関する罪について説明する。このうち、不正指令電磁的記録に関する罪は、コンピュータウィルスに関する罪として、2011年の改正により新設されたものであり、配布資料②の参照を要する。
	事前学修	教科書134～137頁及び配布資料②の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第7章」の問題にチャレンジする。
8回	授業内容	まず、風俗に対する罪について総説する。次に、わいせつ物頒布等罪について説明する。わいせつ物頒布等罪については、電気通信の送信によるわいせつな電磁的記録の頒布等に対応できるように、2011年に大幅な改正がなされており、配布資料②の参照を要する)について説明する。
	事前学修	教科書138～140頁及び配布資料②の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第8章」の問題にチャレンジする。
9回	授業内容	淫行勧誘罪、重婚罪のほか、賭博及び富くじに関する罪、礼拝所及び墳墓に関する罪について説明する。
	事前学修	教科書140～144頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第9章」の問題にチャレンジする。
10回	授業内容	最初に、国家的法益に対する罪の全体像について説明する。次いで、国家の存立に対する罪(内乱の罪、外患に関する罪、国交に関する罪)について説明する。
	事前学修	教科書145～148頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第10章」の問題にチャレンジする。また、6～10回の授業内容を確認した上、「理解度チェック2」の問題に答える。
11回	授業内容	最初に、国家・地方公共団体の作用を害する罪について総説する。次いで、公務の執行を妨害する罪について説明する。公務の執行を妨害する罪は、(a)公務執行妨害罪、職務強要罪と(b)封印等破棄罪ないし談合罪とに分けられるところ、(b)については2011年に大幅な改正がなされており、配布資料②による訂正が必要になる。
	事前学修	教科書148～156頁及び配布資料②の該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第11章」の問題にチャレンジする。

1 2 回	授 業 内 容	まず、国家の拘禁作用を害する逃走の罪について説明する。次に、司法作用に対する罪のうち、犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪について説明する。
	事 前 学 修	教科書 156～164 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第 12 章」の問題にチャレンジする。
1 3 回	授 業 内 容	司法作用に対する罪のうち、偽証の罪、虚偽告訴の罪について説明する。
	事 前 学 修	教科書 164～166 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第 13 章」の問題にチャレンジする。
1 4 回	授 業 内 容	まず、職権濫用の罪について説明する。次に、賄賂の罪の基本的事項(法益、賄賂の意義、職務関連性の意義等)について説明する。
	事 前 学 修	教科書 166～172 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第 14 章」の問題にチャレンジする。
1 5 回	授 業 内 容	個々の賄賂の罪及び没収・追徴について説明する。 授業全体についてまとめる。
	事 前 学 修	教科書 172～176 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容につき、教科書、参考書で確認した上、「自己点検第 15 章」の問題にチャレンジする。また、11～15 回の授業内容を確認した上、「理解度チェック 3」の問題に答える。

- ◆教科書 市販本 『法学刑法 2 各論』 設楽裕文編 信山社
 配布資料 上記教科書の改訂資料として、次のものを配布します。
 配布資料①：法学刑法 2 各論正誤表
 配布資料②：2011年改正に対応する訂正
 配布資料③：2017年改正に対応する訂正

- ◆参考書(参考文献等) 市販本 『法学刑法 5 判例インデックス1000』 設楽裕文編 信山社
 市販本 『現代の判例と刑法理論の展開』 板倉宏監修、著 八千代出版

- ◆成績評価基準 ○最終試験(レポート) 80%、理解度チェック(1～3) 15%、授業受講状況(視聴状況、質問等) 5%

◇国際政治学／国際政治論／国際政治学概論 MB(開講単位数:2単位) 担当者:柑本 英雄

充当科目コード: L30200 (国際政治学) (法学部及び文理学部)
 R32700 (国際政治論) (経済学部のみ)
 S33200 (国際政治学概論) (商学部のみ)

配 当 学 科 : 全学科・専攻 (在籍学部によって充当科目が異なるため注意すること)

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 国際政治学の理論を国際社会のさまざまな現実照射して、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの道標を提供する。国際政治におけるパワーの概念や平和構築概念を使って、グローバル化がもたらす貧困の問題、歴史的な宗教的対立など、「格差」と「相違」の問題を論理的に把握する。

◆**学修到達目標** 自分と世界政治との関係性について深い理解を導き、国際関係で日々起きている問題群について理解する論理的思考方法を獲得する。国際政治学理論を用いて国際社会のさまざまな現実を理解し、今、起こっている問題をどう考えればよいのかの方法論を得る。これらによって、「なぜ、このような問題が起きるのか」の原因を考察し、「将来を予測する力」を獲得する。

◆**授業方法** 本講義では、各テキスト新章導入部分で、国際社会をみる上での社会科学的な思考の導入訓練も実施する。身近な事例解説や関連書籍などを読みあげ、講義トピックに興味を持ってもらう。その後、テキストに沿って講義を展開し、講師によるパワーポイントスライド群によってそこから理解を深めていく。テキスト掲載以外のスライドは背景をライトグリーンにして、区別しやすくしている。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	現代の安全保障をどう読むのか 1 (テキスト第 5 章前半)
	事 前 学 修	「第 5 章 現代の安全保障をどう読むのか」(p. 69～p. 78) を、冷戦時代と現代を比較しながら読む。
	事 後 学 修	国際連盟や国際連合と、新しい安全保障の考え方の違いを考えてみよう。
2 回	授 業 内 容	現代の安全保障をどう読むのか 2 (テキスト第 5 章後半)
	事 前 学 修	「第 5 章 現代の安全保障をどう読むのか」(p. 79～p. 84) を、安全保障の意味を考えながら読む。
	事 後 学 修	安全保障と地域協力について考えてみよう。
3 回	授 業 内 容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか 1 (テキスト第 15 章前半)
	事 前 学 修	「第 15 章 国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」(p. 241～p. 247) を、紛争解決について考えながら読む。
	事 後 学 修	集団安全保障の有効性について考えてみよう。
4 回	授 業 内 容	国際紛争・国内紛争をどう解決するのか 2 (テキスト第 15 章後半)
	事 前 学 修	「第 15 章 国際紛争・国内紛争をどう解決するのか」(p. 247～p. 256) を、人間の安全保障について確認しながら読む。
	事 後 学 修	人間の安全保障と従来の安全保障との違いをまとめてみよう。
5 回	授 業 内 容	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか 1 (テキスト第 6 章前半)
	事 前 学 修	「第 6 章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」(p. 85～p. 93) を、現在の日韓の関係を考えながら読む。
	事 後 学 修	第二次世界大戦後の朝鮮半島の歴史についてまとめてみよう。
6 回	授 業 内 容	北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか 2 (テキスト第 6 章後半)
	事 前 学 修	「第 6 章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか」(p. 93～p. 100) を、現在の日中の関係を考えながら読む。
	事 後 学 修	中国外交の基本から日中関係を考えてみよう。
7 回	授 業 内 容	国際社会における日本の位置づけをどう読むのか (第 7 章)
	事 前 学 修	「第 7 章 国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」(p. 101～p. 117) を、世界における日本の貢献について考えながら読む。
	事 後 学 修	日本が戦後、世界経済や安全保障にどのように対応してきたのか日米同盟との関連を考えてみよう。
8 回	授 業 内 容	地球環境問題とは何か 1 (テキスト第 12 章前半)
	事 前 学 修	「第 12 章 地球環境問題をどう解決するのか」(p. 191～p. 196) を、今起きている環境問題を考えながら読む。
	事 後 学 修	環境問題を、大気汚染、温暖化、生態系破壊、生物多様性、などに分類して原因と現状についてまとめてみよう。
9 回	授 業 内 容	地球環境問題とは何か 2 (テキスト第 12 章後半)
	事 前 学 修	「第 12 章 地球環境問題をどう解決するのか」(p. 196～p. 206) を、先進国、途上国それぞれの立場を考えながら読む。
	事 後 学 修	地球環境問題に関する対応とその課題についてまとめてみよう。
10 回	授 業 内 容	リージョナリズムと欧州統合 1 (テキスト第 10 章前半)
	事 前 学 修	「第 10 章 リージョナリズムと欧州統合」(p. 153～p. 160) を、EU 統合の歴史を考えながら読む。
	事 後 学 修	EU 統合がなぜ必要だったのか、統合までの道のりをまとめてみよう。
11 回	授 業 内 容	リージョナリズムと欧州統合 2 (テキスト第 10 章後半)
	事 前 学 修	「第 10 章 リージョナリズムと欧州統合」(p. 161～p. 170) を、EU の制度を考えながら読む。
	事 後 学 修	今 EU が抱える問題を理解しよう。
12 回	授 業 内 容	非国家アクターの台頭をどう考えるのか (テキスト第 13 章)
	事 前 学 修	「第 13 章 非国家アクターの台頭をどう見るのか」(p. 207～p. 222) を、アクターのそれぞれの役割を考えながら読む。
	事 後 学 修	多様なアクターが存在する理由について考えてみよう。
13 回	授 業 内 容	市民社会は世界を動かすことができるのか 1 (テキスト第 14 章前半)
	事 前 学 修	「第 14 章 市民社会は世界を動かすことができるのか」(p. 223～p. 229) を、市民社会とは何かを考えながら読む。
	事 後 学 修	市民社会の可能性について考えてみよう。
14 回	授 業 内 容	市民社会は世界を動かすことができるのか 2 (テキスト第 14 章後半)
	事 前 学 修	「第 14 章 市民社会は世界を動かすことができるのか」(p. 230～p. 239) を、市民社会の活動を考えながら読む。
	事 後 学 修	市民社会に関する事例を考えてみよう。
15 回	授 業 内 容	MB のレビュー
	事 前 学 修	これまで学んだ事柄を振り返ってみる。
	事 後 学 修	これまでの学習で不足している知識や理解が不十分な事項がないか確認しよう。

◆**教科書** 『国際関係論 <第3版>』 (Next教科書シリーズ) 佐渡友 哲・信夫 隆司・柑本 英雄 編 弘文堂 2018年

◆**参考書(参考文献等)** 教科書『国際関係論 <第3版>』の261～267ページに記載の文献を適宜参照のこと。

◆**成績評価基準** 全 15 回の授業をすべて受講していること。理解度チェック問題をすべて解いていること。受講状況、理解度チェック、最終試験の総合点により評価する。

◇政治学原論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:荒井 祐介

充当科目コード : L20100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 政治経済学科は1学年以上。その他の学科・専攻は2学年以上。

◆**授業概要** 政治と経済、政治と社会、国内政治の仕組み、および国際関係に焦点を合わせながら、政治学の基礎的な概念や理論・モデル等について、現実の事例を適宜示しつつ説明する。

◆**学修到達目標** 実際の政治的な出来事に触れながら政治学の基本的な知識を習得することにより、第一に、政治的問題を自ら論理的に考える能力を身につけ、第二に、民主主義を構成する政治的の市民としての意識を涵養することを目的とする。政治学の基礎的な概念や理論・モデル等を理解し、その知識に基づき自ら現実政治の諸問題を論理的に考えることができるようになる。

◆**授業方法** テキストおよびスライド資料に沿って説明をする。各回に「自己点検」が用意されているので、各授業の内容について自分の理解度を確認する。5回の授業ごとに「理解度チェック」があるので、必ず受けるようにする。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	「組織された集団」: 業界団体、政治家、官僚がお互いの利益を守り合う「鉄の三角同盟」は、しばしば多数の消費者や国民の利益に反して自分たちの利益を守る仕組みとなっている。このような「鉄の三角同盟」はなぜ強い力をもつのか、「鉄の三角同盟」は永遠に持続するものなのか、という点について説明する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第1章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、なぜ「鉄の三角同盟」が形成され強い力を発揮できるのか、「鉄の三角同盟」がどのような問題をもたらすのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
2回	授 業 内 容	「官と民の関係」: 政府は私たちの生活にどこまで介入するのがよいのか、政府の介入によってどのような問題が解決されるのか、そして政府の介入が新たな問題を引き起こす可能性について説明する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第2章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、政府の介入が必要となる「市場の失敗」として「自然独占」「公共財」「情報の非対称性」とはどのようなものか、さらに「政府の失敗」がなぜ起きるのかについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
3回	授 業 内 容	「大企業と政治」: 一般に大企業が政治に対して大きな影響力を行使しているというイメージが存在する。日本において大企業が政治に対していかなる影響力を行使しているのか、あるいは逆に政治は大企業をどれだけ統制できているのかという点について、色々な事例から考える。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第3章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、政府の介入が必要となる「市場の失敗」を引き起こす「自然独占」「公共財」「情報の非対称性」とはどのようなものか、さらに「政府の失敗」がなぜ起きるのかについて確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
4回	授 業 内 容	「選挙と政治」: 選挙の際には多くの候補者が公約を掲げて選挙戦を繰り広げているが、我々有権者は、どうやって候補者を選べば良いのだろうか。理想的な政策投票とはどのようなものなのか、政策ではなく候補者や政党を基準にして選ぶことはより容易なことなのか、といった点について説明する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第4章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、政策を基準にした投票行動、候補者を基準にした投票行動、政党を基準にした投票行動それぞれの特徴と問題点を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
5回	授 業 内 容	「地方分権」: 日本における中央政府と地方政府との関係はどのようなものになっているのか、また1990年代後半から進められてきた分権化のねらいは何であったのかについて説明する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第5章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、日本の中央地方関係の特徴、および分権化によりどのような変化がもたらされたのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
6回	授 業 内 容	「マスメディアと政治」: 新聞・テレビを中心とするマスメディアは、第4の権力と呼ばれるほど現代社会において大きな存在である。マスメディアはどの程度政治に影響力を行使しているのか、マスメディアは誰の味方なのかという点について概観する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第6章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、マスメディアの影響力の大きさ、新聞とテレビの相違点、マスメディアと他の政治的アクターとの関係性、マスメディアによる政治報道の問題点を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
7回	授 業 内 容	「国会」: 国会は日本の最高意思決定機関であるとされているが、官僚が書いた法案を形式的に承認しているだけのようにならざることもある。日本の国会について、議院内閣制における議会の役割という観点から説明する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第7章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、国会の制度的特徴、国会への法案提出に関する国会と内閣との関係性、国会運営をめぐる論点を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
8回	授 業 内 容	「内閣と総理大臣」: 議院内閣制における執政府の長である総理大臣と大統領制における執政府の長である大統領との間には、制度的にどのような相違があるのかを説明する。また、戦後日本の総理大臣がどのようにリーダーシップを発揮してきたのかについても概観する。
	事 前 学 修	『はじめて出会う政治学』第8章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事 後 学 修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、総理大臣と大統領の制度的相違、戦後日本の総理大臣がどのようにリーダーシップを発揮してきたのか、あるいは発揮できなかったのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
9回	授 業 内 容	「官僚」: 一般に日本の政治は官僚によって支えられているというイメージが定着している。日本における官僚と大臣の権力関係はどのようなものか、また官僚のキャリアパスはどのようなものなのかを説明する。

	事前学修	『はじめて出会う政治学』第9章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、日本における官僚と大臣との関係性、官僚のキャリアがどのように形成されているのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
10回	授業内容	「冷戦の終わりとテロとの戦いへ」：国際政治において日本はどのような立ち位置を取ってきたのか、またこれからの日本と世界の関係はどのように変わっていくのかという点を説明する。
	事前学修	『はじめて出会う政治学』第10章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、戦後の国際政治の2つの柱であった冷戦構造と自由貿易体制とはどのようなものであり、それに対して日本はどのような立場をとってきたのか、また今日の国際政治がどのような変化を示しているのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
11回	授業内容	「経済交渉」：戦後の日本とアメリカは同盟国であるが、近年では、アメリカが経済交渉の場面で日本に強い圧力をかける場面がしばしば見られる。経済交渉の過程で、アメリカが日本に対する要求を高めた背景とそれに対する日本の対応について説明する。
	事前学修	『はじめて出会う政治学』第11章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、国際貿易の基本的な考え方、日本とアメリカの経済交渉における変化とその背景を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
12回	授業内容	「国境を越える政治」：グローバル化によってモノ・カネ・ヒト・情報は国境を越えて大変な勢いで移動している。グローバル化の進展する世界で国家が果たすべき役割がどのようなものかを説明する。
	事前学修	『はじめて出会う政治学』第12章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、外部不経済の典型である公害問題・地球環境問題と国際政治の関係性、国際的な相互依存関係の深化が国際政治にもたらす影響を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
13回	授業内容	「医師不足」：現在の日本では医師不足の問題が深刻になっている。日本における医師数の増減をめぐるどのような政策的対応が取られてきたのか、医師数増加をもたらす政策に対して、どのような人たちが反対し、逆にどのような人たちが後押ししたのかという点を説明する。
	事前学修	『日本の政策課題』第3章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、医師数の増減をめぐる政策の変化、および医師数増加をもたらす政策に対して誰が反対し、誰が推進する立場を取ったのかという点を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
14回	授業内容	「外国人労働者」：少子高齢社会となり人口も減少する今後の日本では、外国人労働者をどのように受け入れるべきなのだろうか。また、受け入れた外国人労働者を地域とともに暮らす生活者として迎え入れるための「統合政策」をどのように進めていくべきなのだろうか。
	事前学修	『日本の政策課題』第8章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、日本の外国人労働者政策がどのようなものであり、その問題点が何であるのか、外国人労働者の受け入れに関連する課題として何があるのかを確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。
15回	授業内容	「エネルギー問題」：世界のエネルギー問題として、石油をめぐるさまざまな問題が生起している。いまエネルギー問題をめぐって世界では何が起きているのか、そのことは日本の政治にどのような意味をもつのかという点を説明する。
	事前学修	『日本の政策課題』第10章に目を通して、全体の流れを把握したうえで講義を視聴する。
	事後学修	講義内容とテキストおよびスライド資料をふりかえり、枯渇性資源としての石油の課題、今後の政治的・社会的システムの方向性をめぐる論点を確認しておく。また、理解を深めたい部分や理解が十分でないと思われる部分を自己確認し、参考文献などを用いて自己学習を行う。

◆教科書 市販本 第1回～第12回：『はじめて出会う政治学〔第3版〕』北山俊哉・久米郁男・真淵勝、有斐閣
市販本 第13回～第15回：『日本の政策課題』岩崎正洋編、八千代出版

◆参考書(参考文献等) テキストに掲載されている読書案内および参考文献を参照のこと。

◆成績評価基準 授業受講状況(20%)、理解度チェック(30%)、最終レポート試験(50%)により評価する。

◆国語学概論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:鈴木 功真

充当科目コード:M20300

配当学科:全学科・専攻

配当学年:国文学専攻は1学年以上。その他の学科・専攻は2学年以上。

◆**授業概要** 日本語はそれを母語とするものとしては無自覚に用いている道具に過ぎない側面も有する。その日本語を学問対象として取り上げるのが日本語学であり、本講座を通じて日本語を客観的に記述できるようになることを目指す。日本語学は言語学の一分野である。それを一通りまとめている教科書を参照し、具体例を含んだ解説を理解することによって、把握できるようになることを目指す。

◆**学修到達目標** 日本語学のうち、MBでは語彙・文法・方言・日本語の位置を具体的に取り上げ、それらを把握し、身の回りで触れる言語現象に就いて具体的、客観的に説明できるようになる事を目的とする。必要に応じて歴史的観点を援用し、歴史的変遷の導入も把握できるように心がける。

◆**授業方法** 本講座はメディア授業である。教科書を用いるので十分に予習の上でメディアを受講し、受講後は振り返りを行いつつ必要に応じて内容に即した具体例を身の回りの言語現象から採取していくことが望ましい。

◆授業計画

1回	授業内容	日本語の語彙1ー1、語彙、量的分布、理解語彙と使用語彙、語彙調査と基本語彙
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
2回	授業内容	日本語の語彙1ー2、語の意味、同義語・類義語・対義語
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
3回	授業内容	日本語の語彙2ー1、語種、漢語・和語・外来語
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
4回	授業内容	日本語の語彙2ー2、語構成、複合語
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
5回	授業内容	日本語の語彙3ー1、位相、女性語と男性語、隠語
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
6回	授業内容	日本語の語彙3ー2、武者詞・六法詞・忌詞
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
7回	授業内容	日本語の語彙3ー3、知っておくべき近代以前の辞書
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
8回	授業内容	日本語の文法1ー1、学校文法とその限界、文法と言語生活
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
9回	授業内容	日本語の文法1ー2、活用、敬語、主語について
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
10回	授業内容	日本語の文法2ー1、現代の文法研究の考え方、語用論
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
11回	授業内容	日本語の文法2ー2、現代の文法研究への導入
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
12回	授業内容	日本語の方言1、方言、東西の境界線と方言区画
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
13回	授業内容	日本語の方言2、言語地図とその解釈、方言と共通語、新方言・ネオ方言
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
14回	授業内容	日本語の位置1、日本語の戸籍、日本語はどういう言語か
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。
15回	授業内容	日本語の位置2、言語の系統と比較言語学、日本語系統論の展開
	事前学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと。
	事後学修	授業内容をまとめ、身の回りでの類例を蓄積すること。

◆**教科書** 市販本『緑の日本語学教本』藤田保幸著、和泉書院

◆**参考書(参考文献等)** 日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)、佐藤武義ほか編『日本語大事典』(朝倉書店)、飛田良文ほか編『日本語学研究事典』(明治書院)、これら参考書は大学や公共図書館で閲覧するレベルのもの。

◆**成績評価基準** 理解度チェック3回、期末レポート1回によって総合的に評価する。

◇国文学講義Ⅴ(近代)MB(開講単位数:2単位)

担当者:榎本 正樹

充当科目コード:M30900

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆**授業概要** 日本近代文学の文芸思潮や流派・結社それに個々の作家や作品傾向の概要を把握・理解することが、この講義の目標になります。新政府の近代政策(版籍奉還・廃藩置県・散髪廃刀・郵便制度施行・学制の布告・太陽暦採用・鉄道開業等)の展開とともに、文学もまたこの時代の進展に沿った激流に翻弄されていきます。そうした時代背景を踏まえつつ、明治初期の文学的状况について考えていきます。

◆**学修到達目標** 明治から大正期にかけての小説を中心とした近代文学の特性・特色を学ぶことで、近代文学の基礎知識を得ることを目的とします。具体的に作品を読み進めていくことで、それぞれの時代性や環境が文学作品をどのように変化させていったのか、また近代人の意識や価値観、道徳観などがどのように形成されていったのか、自分の言葉で説明できるようになるのがゴールです。

◆**授業方法** レッスンを受講し、各章の終りの自己点検テストを受け、理解度チェックのレポートを提出し、試験を受ける一般的なメディア授業の形式です。

◆授業計画

	授業内容	国文学講義Ⅴの学習目標と範囲
1回	事前学修 事後学修	近代文学の主立った作家について確認しておきましょう 明治のハイカラと大正のモダニズムについて整理しておきましょう
2回	授業内容 事前学修 事後学修	写実主義の時代(1) 滝沢馬琴と坪内逍遙について調べてみましょう 坪内逍遙の「小説神髓」の特徴についてまとめてみましょう
3回	授業内容 事前学修 事後学修	写実主義の時代(2) 二葉亭四迷、森鷗外、樋口一葉について調べてみましょう 近代という時代を生きた三者三様の苦悩についてまとめてみましょう
4回	授業内容 事前学修 事後学修	「文学界」と北村透谷-浪漫主義へ- 浪漫主義について調べてみましょう 与謝野晶子「みだれ髪」の特徴についてまとめてみましょう
5回	授業内容 事前学修 事後学修	西欧からの自然主義思潮の移入 自然主義について調べてみましょう 西欧から自然主義がどのように移入したのか、そのプロセスをまとめてみましょう
6回	授業内容 事前学修 事後学修	日本自然主義文学 島崎藤村「破戒」を読んでおきましょう 藤村の作家的な展開についてまとめてみましょう
7回	授業内容 事前学修 事後学修	明治40年代の文学 大逆事件について調べてみましょう 思想弾圧下での、それぞれの作家の態度についてまとめてみましょう
8回	授業内容 事前学修 事後学修	非自然主義の文学 -夏目漱石・森鷗外の文学とその流れ- 漱石と鷗外について調べてみましょう 漱石・鷗外の非自然主義文学の性格についてまとめてみましょう
9回	授業内容 事前学修 事後学修	反自然主義の文学(1) -理想主義の文学『白樺』- 白樺派について調べてみましょう 理想主義の特徴についてまとめてみましょう
10回	授業内容 事前学修 事後学修	反自然主義の文学(2) -「新思潮派」の文学- 新思潮派について調べてみましょう 芥川龍之介の作品についてまとめてみましょう
11回	授業内容 事前学修 事後学修	新感覚派の文学 -モダニズムの文学- モダニズム文学について調べてみましょう 新感覚派の作家たちの特徴についてまとめてみましょう
12回	授業内容 事前学修 事後学修	プロレタリア文学 -労働者の文学と国家権力の弾圧による転向- プロレタリア文学について調べてみましょう プロレタリア文学の現代的な意味と意義について考えてみましょう

◆教科書

市販本	『浮雲』二葉亭四迷著 岩波文庫
市販本	『破戒』島崎藤村著 岩波文庫

◆参考書(参考文献等) 特になし

◆**成績評価基準** 自己点検テスト、理解度チェックのレポート提出、試験(レポート形式)などにより、総合的に評価します。

◇イギリス文学史 I MB(開講単位数:2単位)

担当者:猪野 恵也

充当科目コード : N20100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 文学専攻 (英文学) は 1 学年以上。その他の学科・専攻は 2 学年以上。

◆**授業概要** 18世紀以後の主要作家と作品を概観する。文学史は作家、作品を暗記するだけではなく、その時代と社会がどのような作品を生み出していくのかに目を向け、文学が果たす役割を考えることが大切である。また、いつかその作品を読んでみようという気持ちになればこの講義も無駄とはならない。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期及び後期の連続受講が望ましい。

◆**学修到達目標** 1. 18世紀以後のイギリス文学史の流れが把握できる。
2. 「イギリス文学史 I MA」に続いて古典に親しむことができる。

◆**授業方法** メディア、講義用ディスカッションボード、質疑応答を利用しての授業を展開する。なお講義は原公章先生が担当し、その他の授業運営は猪野が担当します。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	王政復古から古典主義の時代へ
	事前学修	イギリス文学史において王政復古及び古典主義について学修しておく。
	事後学修	授業内容を踏まえ、時代背景など学修内容をよく復習する。
2 回	授 業 内 容	新古典主義の文学
	事前学修	John Dryden、Alexander Pope について学修しておく。
	事後学修	John Dryden 及び Alexander Pope による作品を読む。
3 回	授 業 内 容	作品を読む-ドライデンとポーブ
	事前学修	予め辞書を引くなどをして抜粋された英文に目を通しておく。
	事後学修	John Dryden 及び Alexander Pope による作品を読む。
4 回	授 業 内 容	17 世紀の演劇・ジャーナリズム・女性作家の登場
	事前学修	イギリス文学史において 17 世紀の演劇について学修しておく。
	事後学修	授業内容を踏まえ、学修内容をよく復習する。この回は見逃しがちな学修内容である。
5 回	授 業 内 容	ジョンソン博士とその周辺
	事前学修	イギリス文学史において Samuel Johnson について学修しておく。
	事後学修	授業内容を踏まえ、Samuel Johnson についてよく復習する。
6 回	授 業 内 容	小説の時代の始まり
	事前学修	イギリス文学史において Defoe と Swift について学修しておく。
	事後学修	Robinson Crusoe、Gulliver's Travels をなるべく原文で読む。
7 回	授 業 内 容	近代小説の幕開け
	事前学修	イギリス文学史において Samuel Richardson について学修しておく。
	事後学修	Pamela を読む。
8 回	授 業 内 容	ヘンリー・フィールディングとトバイアス・スモレット
	事前学修	イギリス文学史において Henry Fielding と Tobias Smollett について学修しておく。
	事後学修	Tom Jones を読む。
9 回	授 業 内 容	スターンとセンチメンタル小説、及び家庭小説
	事前学修	イギリス文学史において Laurence Sterne について学修しておく。
	事後学修	Tristram Shandy を読む。
10 回	授 業 内 容	ゴシック小説家たち
	事前学修	イギリス文学史において Gothic について学修しておく。
	事後学修	Horace Walpole の The Castle of Otranto を読む。
11 回	授 業 内 容	ロマン主義の前衛詩人たち
	事前学修	イギリス文学史において Thomas Gray について学修しておく。
	事後学修	「イギリス名詩選」(岩波文庫)などの詩集を入手し、実際に英詩を読む。
12 回	授 業 内 容	作品を読む-グレイ、クーパー、コリンズ
	事前学修	予め辞書を引くなどをして抜粋された英文に目を通しておく。
	事後学修	Gray による詩を原文で読む。
13 回	授 業 内 容	ウィリアム・ブレイクの詩を読む
	事前学修	William Blake は魅力的な詩人なのでイギリス文学史においてよく学修しておく。
	事後学修	William Blake による詩を原文で読む。
14 回	授 業 内 容	ロバート・バーンズの詩を読む
	事前学修	イギリス文学史において Robert Burns について学修しておく。
	事後学修	Robert Burns による詩を原文で読む。
15 回	授 業 内 容	19 世紀に向けて
	事前学修	14 回目までの授業内容をじゅうぶん時間をかけて復習しておく。
	事後学修	学んだことを念頭に置いてイギリス文学史を通読し、実際に作品を読んでみる。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 通材 『イギリス文学史 I N20100』(教材コード 000111)

◆**成績評価基準** 受講状況(10%) 理解度チェック(20%) 最終試験(70%) 理解度チェックを全て提出していることを前提に評価する。試験は2問併せて1600字前後にまとめること。あまり少なすぎても多すぎても不可。

◇英文法 MB（開講単位数:2単位）

担当者:山岡 洋

充当科目コード:N20200

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 文学専攻（英文学）は1 学年以上, その他の学科・専攻は2 学年以上

◆**授業概要** 名詞・動詞という基本的な品詞の知識を基に, 助動詞・形容詞・副詞・前置詞・不定詞・分詞・動名詞・接続詞・関係詞について学んでいく。特に, 助動詞については, 最初の5回で, 助動詞概論・法・法助動詞・アスペクト・テンス・完了形・進行形・受動態の説明をしていく。

◆**学修到達目標** 本講座では, 英語の文法（ことばの規則）について, 基礎的なレベルを定着させることを目的とする。MAで学んだ「用語」や「品詞」などを活用しながら, 名詞・代名詞・動詞などに加えて, 助動詞・形容詞・副詞・前置詞・接続詞などの働きを学んでいく。

◆**授業方法** 基本的には, インターネット上の教材を視聴しながら授業を受けていく。その際に, 常に教科書を参照しながら, そして, インターネット上の教材や教科書だけでは理解不十分の箇所に関しては参考書を必要に応じて参照する。各章ごとに, 「自己点検」が設けられているので, その都度理解度を確認し, また数章ごとに「理解度チェック」が計4回設けられているので, そこでも改めて理解度を確認する。最後に「最終試験」が設けられている。

◆**授業計画**

1 回	授業内容	助動詞（1）: 助動詞とは
	事前学修	教科書 pp. 210-216 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 210-216 を見ながら再確認する。
2 回	授業内容	助動詞（2）: 法
	事前学修	教科書 pp. 228-235 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 228-235 を見ながら再確認する。
3 回	授業内容	助動詞（3）: 法助動詞
	事前学修	教科書 pp. 235-251 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 235-251 を見ながら再確認する。
4 回	授業内容	助動詞（4）: 「アスペクト」と「動作動詞／状態動詞」, 時制, 未来を表す表現
	事前学修	教科書 pp. 252-265 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 252-265 を見ながら再確認する。
5 回	授業内容	助動詞（5）: 完了形, 進行形, 受動態
	事前学修	教科書 pp. 266-277 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 266-277 を見ながら再確認する。
6 回	授業内容	形容詞・副詞: 形容詞・副詞とは, 補部になる形容詞・副詞, 修飾語としての形容詞・副詞, 比較
	事前学修	教科書 pp. 277-291 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 277-291 を見ながら再確認する。
7 回	授業内容	前置詞: 前置詞とは, 意味による前置詞の分類, 基本的前置詞の意味と用法, 群前置詞
	事前学修	教科書 pp. 291-307 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 291-307 を見ながら再確認する。
8 回	授業内容	不定詞: 不定詞とは, 不定詞の意味上の主語, 不定詞を含む表現
	事前学修	教科書 pp. 337-357 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 337-357 を見ながら再確認する。
9 回	授業内容	分詞: 分詞とは, 名詞修飾の分詞, 補部になる分詞, 分詞構文
	事前学修	教科書 pp. 357-367 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 357-367 を見ながら再確認する。
10 回	授業内容	動名詞: 動名詞とは, 動名詞の働き, 動名詞の意味上の主語, 動名詞と分詞・不定詞
	事前学修	教科書 pp. 367-379 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 367-379 を見ながら再確認する。
11 回	授業内容	接続詞: 接続詞とは, 等位接続詞, 従属接続詞, 名詞的従属接続詞, 副詞的従属接続詞
	事前学修	教科書 pp. 309-316, 202-205, 307-309 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 309-316, 202-205, 307-309 を見ながら再確認する。
12 回	授業内容	関係詞: 関係詞とは, 関係代名詞, 関係副詞
	事前学修	教科書 pp. 379-394 を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを, 教科書 pp. 379-394 を見ながら再確認する。

◆**教科書** 市販本『新英文法概説』 山岡洋著 開拓社

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『英文法解説（改訂三版）』 江川泰一郎 金子書房
 市販本『ロイヤル英文法（改訂新版）』 綿貫陽・宮川幸久・須貝猛敏・高松尚弘・マークピーターセン 旺文社
 市販本『ジーニアス総合英語』 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答, ディスカッション）20%, 理解度チェック10%, 最終試験70%

◇英語文学概説／英米文学概説 MB(開講単位数:2単位)

担当者:鈴木 孝

充 当 科 目 コー ド : 2 0 1 9 年 度 入 学 生 及 び 科 目 履 修 生 は N20400 (英 語 文 学 概 説) , そ れ 以 外 の 学 生 に つ い て は N20300 (英 米 文 学 概 説)

配 当 学 科 : 全 学 科 ・ 専 攻

配 当 学 年 : 文 学 専 攻 (英 文 学) は 1 学 年 以 上 . そ の 他 の 学 科 ・ 専 攻 は 2 学 年 以 上 .

◆**授業概要** まずアメリカ文化・文学のおおまかな特徴を確認し、植民地時代、独立戦争前後、アメリカン・ルネッサンス期、リアリズム、自然主義の台頭、モダニズム時代、さまざまなルネッサンスの勃興、「失われた世代」などに活躍した作家、詩人についての講義を行っていく。演劇の諸相や第二次大戦後の多様化にも言及する。

◆**学修到達目標** アメリカの文学に表れている思想・感覚などの特徴を、歴史的な側面から俯瞰し、各時代の趨勢と個々の作家作品について考察することを通じて、アメリカ文化・文学の歴史やその特長などについての理解を深めることができる。

◆**授業方法** メディアを利用した講義形式。

◆授業計画

	授 業 内 容	アメリ文化・文学の特徴と植民地時代の文学
1 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	独立戦争前後
2 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	アメリカン・ルネッサンス
3 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	放浪の精神・国際感覚
4 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	リアリズムの台頭・地方の作家たち
5 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	社会問題と文学——地方の文学から自然主義の文学へ
6 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	自然主義の小説とアメリカ的誠実
7 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	大衆文化とモダニズム
8 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	シカゴ・ルネッサンス、さまざまなルネッサンスそしてフォークナー
9 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	南部・中西部・西部の作家たち
1 0 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	「失われた世代」(つづき): 演劇の諸相
1 1 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	第二次大戦後の多様化
1 2 回	事前学修	上記授業内容に記された語句について、その概略をあらかじめ調べておくこと。
	事後学修	講義内容で言及された重要ポイントの理解を深めておくこと。
	授 業 内 容	

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『アメリカ文学史』 巽孝之著 慶応義塾大学出版

市販本 『新版アメリカ文学史』 別府恵子・渡辺和子編 ミネルヴァ書房

市販本 『総説アメリカ文学史』 大橋健三郎・斎藤光・大橋吉之輔編 研究社出版

◆**成績評価基準** メディア授業の受講状況(ディスカッションボードへの書き込み等含む・10%)、理解度チェック(1～4各10%、計40%)、及びインターネットを利用した試験(レポート形式・50%)による総合的な評価。

◇英語史 MB(開講単位数:2単位)

担当者:真野 一雄

充当科目コード:N30300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 「音韻論」・「語形論」「統語論」について、歴史的な流れ、変化を概観し、どのようにして今日の姿になったか、認識する。

◆**学修到達目標** 「音韻論」・「語形論」「統語論」について、歴史的な流れ、変化を理解し、どのようにして今日の姿になったか、説明できるようにする。

◆**授業方法** メディアを利用して聴講、課題（理解度チェック1，2）を提出する。

◆**授業計画**

1 回	授業内容	第1章 インド・ヨーロッパ祖語の母音交替
	事前学修	インド・ヨーロッパ祖語、ゲルマン祖語、古英語、中英語、近代英語の時代を知る。
	事後学修	母音交替とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
2 回	授業内容	第2章 ゲルマン祖語のグリムの法則
	事前学修	グリムの法則とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	グリムの法則とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
3 回	授業内容	第3章 古英語の母音変異
	事前学修	母音変異とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	母音変異とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
4 回	授業内容	第4章 近代英語の大母音推移
	事前学修	大母音推移とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	大母音推移とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
5 回	授業内容	第5章 名詞の性・数・格／不規則複数形
	事前学修	性・数・格の変化とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	性・数・格の変化とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
6 回	授業内容	第6章 代名詞／形容詞 + 理解度チェック1
	事前学修	代名詞／形容詞の語形変化とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	代名詞／形容詞の語形変化とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
7 回	授業内容	第7章 強変化動詞／弱変化動詞(1)
	事前学修	強変化動詞、弱変化動詞とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	強変化動詞、弱変化動詞とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
8 回	授業内容	第8章 弱変化動詞(2)／特別動詞
	事前学修	弱変化動詞の例外、特別動詞とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	弱変化動詞の例外、特別動詞とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
9 回	授業内容	第9章 二重否定／語順の確立／属格
	事前学修	二重否定、語順の確立、属格とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	二重否定、語順の確立、属格とは何か、確認する。どのような語例が該当するか、理解しておく。
10 回	授業内容	第10章 It is me／関係代名詞
	事前学修	It is me, 関係代名詞の歴史的変遷とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	It is me, 関係代名詞の歴史的変遷とは何か、確認する。どのような文例があるか、理解しておく。
11 回	授業内容	第11章 非人称動詞
	事前学修	非人称動詞とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	非人称動詞の歴史的変遷とは何か、確認する。どのような文例があるか、理解しておく。
12 回	授業内容	第12章 動詞形の多様性／接続法 + 理解度チェック2
	事前学修	動詞形の多様性、接続法とは何か、予備知識を得ておく。
	事後学修	動詞形の多様性、接続法とは何か、確認する。どのような文例が該当するか、理解しておく。

◆**教科書** 通材 『英語史 N30300』通信教育部教材（教材コード000117）

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『英語の歴史一過去から未来への物語』寺澤 盾著 中公新書
市販本 『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書

◆**成績評価基準** 2回の理解度チェックの提出を条件に、その2回の理解度チェック及び最終試験に受講(視聴)回数を加味して評価する。

◇英語音声学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:森 晴代

充当科目コード : N30600

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 英語プロソディの特徴(リズム、強勢、音調)について、日本語音声と比較しながら授業を進めます。音声言語を観察・分析・記述する枠組みと、英語の標準発音の特徴について、実践的・探索的に理解を深めます。英語と日本語の言語としての特徴を探り、音声言語の観点から、英語らしさ・日本語らしさについての考えを発展させます。そして、受講者各自の英語発音や日本語発音について、内省・観察するための基礎づくりを進めます。

◆**学修到達目標** 本講義の目標は次の2つに大別されます。ひとつは、話しことばとしての英語の主要な特徴を説明することができ、人間の音声コミュニケーションについて理解と考察を進めることができるようになることです。もうひとつの目標は、音声学の視点を持ち、英語音声を自覚的に運用することができるようになることです。

◆**授業方法** 受講者各自が、メディア授業の受講と理解度チェックを計画的に進めることが中心となります。「授業計画」で学修期間を確認し、自身の計画を入念に立ててください。授業各回にある事前学習の「問い」について、自分自身の考えや観察をまとめた上で受講し、事後学修を行ってください。学習時には「講義用ディスカッションボード」を必ず閲覧するとともに、受講者間での意見交換にも積極的に利用することを強く勧めます。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	話しことばのプロソディ:プロソディ、特にリズムについて、英語と日本語を比較しながら概説します。
	事 前 学 修	問:あなたの英語はリズムにのっているか?
	事 後 学 修	第1章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
2 回	授 業 内 容	語強勢 (1): 英語の単語における強勢の音声実現を、日本語と比較しながら探ります。
	事 前 学 修	問:英語発音の「receipt」と日本語発音の「レシート」はどこが違うか?
	事 後 学 修	第2章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
3 回	授 業 内 容	語強勢 (2): 語強勢と接尾辞の関係、そして複合語の強勢について概説します。特に、複合語の強勢については、日本語と英語の複合名詞の強勢パターンを比較して、特徴を考察します。
	事 前 学 修	問:英語発音の「passport」と日本語発音の「パスポート」はどこが違うか?
	事 後 学 修	第3章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
4 回	授 業 内 容	英語音声の観察と発音練習 (1): 英語発音の観察、発音、そして聴き取りの練習をします。アメリカ標準発音とイギリス標準発音の母音、困難を感じやすい英語子音の区別、そして英語のリズムの3つそれぞれに焦点を絞った練習です。
	事 前 学 修	問:自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめてください。
	事 後 学 修	・ 必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。 ・ ここまでの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(1)を解答してください。
5 回	授 業 内 容	プロソディと文の発音: 音声コミュニケーションのモデルを紹介し、そのモデルに基づいて、私たちが日常的に行っている音声コミュニケーションを考察します。
	事 前 学 修	問:言語音声のプロソディは、どのような情報を相手に伝達しているか?
	事 後 学 修	第5章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
6 回	授 業 内 容	イントネーション (1): 英語イントネーションの特徴、特に、音調句への分け方と音調の選択について考察します。英文の意味と区切り方、そして文の種類と音調の選択を検討します。
	事 前 学 修	問:「John said Susan telephoned after the party.」には2通りの解釈がある。どのように発音仕分けたらよいか?
	事 後 学 修	第6章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
7 回	授 業 内 容	イントネーション (2): 英語イントネーションの特徴、特に、音調核音節の位置づけについて考察します。
	事 前 学 修	問:文アクセントが置かれる単語には、どのような特徴があるか?
	事 後 学 修	第7章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
8 回	授 業 内 容	英語音声の観察と発音練習 (2): 英語発音の観察、発音、そして聴き取りの練習をします。アメリカ標準発音とイギリス標準発音の母音、困難を感じやすい英語子音の区別、そして英語のイントネーションに焦点を絞った練習です。そして最後に、音声表記を判別する練習があります。
	事 前 学 修	問:自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめてください。
	事 後 学 修	・ 必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。 ・ ここまでの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(2)を解答してください。
9 回	授 業 内 容	話しことばにおける発音の変化 (1): 話しことばの中に観察される発音の変化について概説します。分節音の音声的特徴の違いとリズムの観点から、単語間の区切りとつながりを観察・検討します。
	事 前 学 修	問:発音が変化しているにも関わらず、間違わずに理解できるのはなぜか?
	事 後 学 修	第9章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
10 回	授 業 内 容	話しことばにおける発音の変化 (2): 単語の境界部分に現れる様々な発音変化について概説します。音がなくなる場合、ある音が別の音に変化する場合、そして、音が挿入される場合について観察を進めます。
	事 前 学 修	問:発音が変化しているにも関わらず、間違わずに理解できるのはなぜか?
	事 後 学 修	第10章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。
11 回	授 業 内 容	英語音声の観察と発音練習 (3): 英語発音の観察、発音、そして聴き取りの練習をします。英語の子音連続、英語のリズム、文の区切り、そして音声表記の練習です。
	事 前 学 修	問:自分自身の発音を注意深く観察・分析し、その特徴をまとめてください。
	事 後 学 修	・ 必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。 ・ ここまでの講義内容に関する理解を確認するために、理解度チェック(3)を解答してください。
12 回	授 業 内 容	日英語のプロソディと音声転移: 英語プロソディと日本語プロソディの特徴を、第2言語の音声獲得という観点から、検討します。
	事 前 学 修	問:なまった英語発音(e.g. 日本語っぽい英語発音)は、なぜ起こるか?
	事 後 学 修	第12章自己点検問題を解答し、学習内容を確認してください。必要に応じて、メディア授業教材を再度視聴してください。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** メディア授業「英語音声学MB」の各章に明記しています。

◆**成績評価基準** 最終レポート試験を中心として、メディア授業受講状況と理解度チェック(受験結果)、そして「講義用ディスカッションボード」への参加状況を加味して、総合的に評価します。

◇英語学概説 MB(開講単位数:2 単位)

担当者:山岡 洋

充当科目コード : N30700

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、語や文の構造に関する学問分野を中心に紹介していく。

◆**学修到達目標** 言語学の一分野としての英語学が、どのような学問分野であるか、その全体像を理解する。具体的には、英語学という学問の存在意義やその下位分類としてどのような学問分野が存在するのか、そしてそれぞれの学問分野は概略どのような内容であるのかを、概略で説明する。この講座では、中でも、語や文の構造に関する学問分野を中心に紹介していく。英語学の全体像を理解することにより、英語教員として身に付けておくべき英語に関する基礎的な知識を身に付け、国際語としての英語をいかに学習者に伝えるかを幅広く考えられるようになる。

◆**授業方法** 基本的には、インターネット上の教材を視聴しながら授業を受けていく。その際に、インターネット上の教材だけでは理解不十分の箇所に関しては参考書を必要に応じて参照する。各章ごとに、「自己点検」が設けられているので、その都度理解度を確認し、また数章ごとに「理解度チェック」が計4回設けられているので、そこでも改めて理解度を確認する。最後に「最終試験」が設けられている。

◆授業計画

	授 業 内 容	英語学とは－言語学の中の英語学－
1 回	事前学修	参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「ことばの知識」や「言語学の諸分野」に関する箇所を見ながら再確認する。
2 回	授 業 内 容	形態論（１）：形態論の仕事と語の特徴
	事前学修	参考図書の「形態論」に関する最初の箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「形態論」に関する最初の箇所を見ながら再確認する。
3 回	授 業 内 容	形態論（２）：形態素分析と規則性の低い語形成
	事前学修	参考図書の「形態素」と「語形成」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「形態素」と「語形成」に関する箇所を見ながら再確認する。
4 回	授 業 内 容	形態論（３）：規則性の高い語形成
	事前学修	参考図書の「語形成」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「語形成」に関する箇所を見ながら再確認する。これまでの学習理解度を「理解度チェック（１）」でチェックする。
5 回	授 業 内 容	生成文法（１）：生成文法理論の概略
	事前学修	参考図書の「生成文法理論の概略」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「生成文法理論の概略」に関する箇所を見ながら再確認する。
6 回	授 業 内 容	生成文法（２）：GB 理論以前の生成文法
	事前学修	参考図書の「GB 理論以前の生成文法」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「GB 理論以前の生成文法」に関する箇所を見ながら再確認する。
7 回	授 業 内 容	生成文法（３）：GB 理論の特徴・X' 理論・θ 理論・格理論
	事前学修	参考図書の「GB 理論の概略」「X' 理論」「θ 理論」「格理論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「GB 理論の概略」「X' 理論」「θ 理論」「格理論」に関する箇所を見ながら再確認する。
8 回	授 業 内 容	生成文法（４）：統率理論・境界理論・束縛理論・コントロール理論
	事前学修	参考図書の「統率理論」「境界理論」「束縛理論」「コントロール理論」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「統率理論」「境界理論」「束縛理論」「コントロール理論」に関する箇所を見ながら再確認する。これまでの学習理解度を「理解度チェック（２）」でチェックする。
9 回	授 業 内 容	機能統語論（１）：省略
	事前学修	参考図書の「機能文法の『省略』」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「機能文法の『省略』」に関する箇所を見ながら再確認する。
10 回	授 業 内 容	機能統語論（２）：受動態
	事前学修	参考図書の「機能文法の『受身文』」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「機能文法の『受身文』」に関する箇所を見ながら再確認する。
11 回	授 業 内 容	機能統語論（３）：視点
	事前学修	参考図書の「機能文法の『視点』」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「機能文法の『視点』」に関する箇所を見ながら再確認する。これまでの学習理解度を「理解度チェック（３）」でチェックする。
12 回	授 業 内 容	伝統文法（１）：動詞の時制
	事前学修	参考図書の「動詞の時制」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「動詞の時制」に関する箇所を見ながら再確認する。
13 回	授 業 内 容	伝統文法（２）：受動態
	事前学修	参考図書の「受動態」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「受動態」に関する箇所を見ながら再確認する。
14 回	授 業 内 容	伝統文法（３）：法助動詞
	事前学修	参考図書の「法助動詞」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「法助動詞」に関する箇所を見ながら再確認する。
15 回	授 業 内 容	英語史
	事前学修	参考図書の「英語史」に関する箇所を読んでおく。
	事後学修	授業中にとったノートを、参考図書の「英語史」に関する箇所を見ながら再確認する。これまでの学習理解度を「理解度チェック（４）」でチェックし、総まとめとして「最終試験」を受ける。

◆教科書 特になし

◆参考書(参考文献等)

市販本	『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編, くろしお出版
市販本	『生成文法の新展開』 研究社
市販本	『機能的統語論』 くろしお出版
市販本	『英文法解説』 金子書房

◆成績評価基準 メディア授業受講状況（質疑応答，ディスカッション）20%， 理解度チェック10%， 最終試験70%

◇東洋史概論／東洋史概説 MB(開講単位数:2単位)

担当者:須江 隆・綿貫 哲郎

充当科目コード: K32300 (東洋史概論) (法学部のみ)

Q30300 (東洋史概説) (法学部以外の学部)

配 当 学 科 : 全学科・専攻 (在籍学部によって充当科目が異なるため注意すること)

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 紀元前221年に秦の始皇帝によって天下＝世界が統一されて誕生した「世界帝国」は、2000年以上にもわたって存在しつづけた。この授業では、先ず古代から最近の中国に至るまでの中華帝国史の時代像を通時的に学んだ上で、次にいくつかの精選したキーワードに沿った学修を行う。それを通して、中華帝国時代における中国の制度や社会の特徴を、周辺民族の動向とあわせて鮮明に理解することを目的とする。

- ◆**学修到達目標**
- ① 中華帝国時代の皇帝制度、科挙制度、官僚制度、地方統治と都城制、民衆と信仰について自身の言葉で具体的に説明できる。その長所・短所を現代日本の類似例と比較検討して論述せよ。
 - ② 中華帝国時代の皇帝制度、科挙制度、官僚制度、地方統治と都城制、民衆と信仰に関連する現代日本の諸問題を抽出し、その概要を比較検討できる。
 - ③ 「征服王朝」と「漢化」との関係について述べるができる。
 - ④ 「唐宋変革期」における、北方民族の果たした役割について述べるができる。
 - ⑤ 現在の中華人民共和国と清朝との関係について述べるができる。

◆**授業方法** メディアを利用しての授業を中心としながら参考書等による自己学習を併用する。2回実施 (第7回と第12回の授業終了時) する理解度チェックテストを受けて、授業内容の理解度を確認する。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	中華帝国史概説Ⅰ: (1) 古代 (2) 中世 (3) 「唐宋変革」
	事 前 学 修	教科書や高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分を熟読しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、中国における古代、中世、「唐宋変革」期の各時代の特色に関する理解を深めること。
2 回	授 業 内 容	中華帝国史概説Ⅱ: (1) 近世 (2) 近代 (3) 最近の中国
	事 前 学 修	教科書や高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分を熟読しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、中国における近世、近代の各時代の特色と最近の中国に関する理解を深めること。
3 回	授 業 内 容	皇帝制度: (1) 秦の始皇帝と皇帝制度の確立 (2) 天人相関説と皇帝の宿命 (3) 君主独裁体制下の皇帝
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「秦の始皇帝」「天人相関説」「君主独裁体制」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国における皇帝の特色に関する理解を深めること。
4 回	授 業 内 容	科挙制度: (1) 科挙前史と科挙制の沿革 (2) 科挙の仕組みと社会問題 (3) 科挙制度の廃止が意味するもの
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「九品官人法」「科挙」「儒教の経典」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国で実施された科挙制度の仕組みや長所・短所に関する理解を深めること。
5 回	授 業 内 容	官僚と知識人: (1) 伝統中国の官僚制 (2) 昇進の仕組みと日常生活 (3) ある知識人の生涯
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「伝統中国の官僚制」「士大夫」「朱長文」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国における官僚制の特色や知識人に関する理解を深めること。
6 回	授 業 内 容	地方統治と都城制: (1) 地方統治の仕組み (2) 都城制と都市構造 (3) 地方都市「鎮」の出現
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「郡県制」「都城制」「鎮」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国における地方統治の仕組みや都城制や都市構造に関する理解を深めること。
7 回	授 業 内 容	民衆と信仰: (1) 民間信仰の神々 (2) 碑文史料に見える神々の霊験 (3) 民衆の精神生活
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「中国の民間信仰」「祠廟」「南潯鎮」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国における民衆の信心の世界に関する理解を深めること。
8 回	授 業 内 容	周辺民族Ⅰ: (1) 中華思想と「蛮夷戎狄」 (2) 万里の長城と北方民族 (3) 「征服王朝」と「漢化」
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「万里の長城」「(万里の長城の外側の) 北方民族」「漢化」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国の万里の長城を挟んで隋・唐以前に起こった出来事に関する理解を深めること。
9 回	授 業 内 容	周辺民族Ⅱ: (1) 遼・金と南北システム (2) モンゴル大帝国と中国支配
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「北宋・南宋」「遼」「金」「モンゴル帝国」「元」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国の万里の長城を挟んで五代十国より元朝までに起こった出来事に関する理解を深めること。
10 回	授 業 内 容	周辺民族Ⅲ: (1) 明の永楽帝と大帝国の夢 (2) 北虜と南倭
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「靖難の変 (または靖難の役)」「明の永楽帝」「北虜南倭」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国における北京に都を置いた王朝に関する理解を深めること。

11回	授 業 内 容	周辺民族Ⅳ:(1)多民族国家・清朝の成立 (2)清朝入関と支配体制のゆらぎ
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「後金国」「清朝」「八旗制」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国の明朝と清朝との領土の大きさの違いに関する理解を深めること。
12回	授 業 内 容	周辺民族Ⅴ:(1)最大領域の形成と清朝皇帝の性格 (2)現代中国の少数民族問題
	事 前 学 修	高等学校で使用した「世界史 B」の中国史関連部分熟読するとともに、キーワード「満洲文字」「康熙帝」「雍正帝」「乾隆帝」「中国の少数民族」に関して調査しておくこと。
	事 後 学 修	メディア授業「東洋史概説」の該当箇所を繰り返し視聴して内容をノートに整理し、嘗ての中国の清朝と現在の中国の民族・領土の違いに関する理解を深めること。

◆教科書 通材 『東洋史概説 Q30300/東洋史概論 K32300』通信教育教材（教材コード 000523）

◆参考書(参考文献等) 市販本 メディア授業「東洋史概説」の各章に掲載

◆成績評価基準 メディア授業受講状況・質疑応答・ディスカッション（25%）、理解度チェック（25%）、最終レポート試験（50%）による総合評価。

◇経済学概論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:藤本 訓利

充当科目コード: R20300

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 経済学部は1学年以上。その他の学部は2学年以上。

◆**授業概要** 一国の経済に目を向けると、物価や失業率が上昇したとか下落したか、景気が良くなったとか悪くなったとか、日銀が大胆な金融緩和政策を実施したとか、政府が××兆円の公共事業を実行したとか、日常生活に密接に関連したニュースが毎日のように報道されています。こうしたニュースの意味を理解するには最低限のマクロ経済学の知識が必要です。そこで、この講義では、経済学の理論分野の中でも、一国の産出量や雇用量や物価などがどのようなメカニズムで決定されるかという理論や、財政金融政策のエッセンスについてできる限り平易に解説しています。

◆**学修到達目標** マクロ経済学の基礎理論を習得することによって、マクロ経済学の分析手法や、マクロ経済学の考え方を理解し、今日の経済の動きや経済政策について考察する力を身につけ、自分の考えを明確に述べるができるようになることを目標とします。

◆**授業方法** 本講義では、マクロ経済学の基礎理論を12章から構成し、3章ごとに計4回の「理解度チェック」(練習問題)を設けてあります。それを解くことによって理解度を深めて下さい。

◆授業計画

1回	授業内容	マクロ経済学とはどのような学問かについて解説します
	事前学修	参考書やネットを利用して、マクロ経済学の歴史や分析手法の特徴について調べてみましょう。
	事後学修	マクロ経済学で用いられる独特の用語などを中心に、講義の内容をノートに整理しておきましょう。
2回	授業内容	国民経済計算: GDPやGNPなどの国民所得の概念について説明します。
	事前学修	参考書やネットを利用して、GDPやGNPといった国民所得の諸概念について調べておきましょう。
	事後学修	国民経済計算に関わる重要な専門用語を理解すると同時に、それらが簡単な計算問題でも解けるようにしておきましょう。
3回	授業内容	国民所得の決定理論: 1国の産出量が決定されるメカニズムすなわちケインズの有効需要の原理について説明します。
	事前学修	ここでは、1次方程式やグラフが用いられているので、中学校で学んだ1次関数を復習しておきましょう。
	事後学修	均衡国民所得が、簡単な計算問題でも解けるように理解しておきましょう。
4回	授業内容	乗数と政府部門: 総需要管理政策、とくに政府支出乗数の効果について説明します。
	事前学修	政府が公共投資をする理由を事前に調べておきましょう。
	事後学修	政府支出乗数や投資乗数の効果に関する計算問題が解けるようにしておきましょう。 また、45度線図で、それらの効果について説明できるようにしておきましょう。
5回	授業内容	貨幣とマネーサプライの変化: 通貨供給量(マネーサプライ)の概念とハイパワードマネー(マネタリーベース)について説明します。
	事前学修	日銀のホームページを利用して、通貨供給量やマネタリーベースの概念について調べると同時に、現在、その残高がおよそどのくらいになっているのかも調べてみましょう。
	事後学修	貨幣乗数(通貨乗数)を用いて、金融政策の実施が通貨供給量にどのような変化をもたらすか、ノートに整理し理解を深めておきましょう。
6回	授業内容	貨幣需要と利子率: 貨幣の保有動機や貨幣需要関数、債券価格と利子率の関係について市場利子率の決定メカニズムに説明します。
	事前学修	参考書を利用して、ケインズの流動性選好説について調べてみましょう。
	事後学修	貨幣の保有動機や貨幣需要関数について整理し理解しましょう。また、できれば、古典派理論では、利子率が何によって決定されるか調べ、ケインズの流動性選好説との違いについて考察することが有益でしょう。
7回	授業内容	IS-LM分析: IS曲線とLM曲線を導出し、利子率と国民所得が同時に決定されるメカニズムについて説明します。
	事前学修	以前に学習した45度線図による均衡国民所得の決定理論と、流動性選好説による利子率の決定理論をよく復習しておきましょう。
	事後学修	IS曲線とLM曲線の特徴や傾きについてしっかり理解しておきましょう。
8回	授業内容	IS-LM分析と財政・金融政策: IS曲線とLM曲線のシフトを用いて財政・金融政策の効果について説明します。
	事前学修	財政政策や金融政策にはどのようなものがあるか、事前に調べておきましょう。
	事後学修	財政・金融政策の効果について作図して説明できるように理解を深めておきましょう。
9回	授業内容	開放経済モデル: IS-LMモデルを用いて、為替の変動や保護貿易政策が実行された場合の経済効果について説明します。
	事前学修	IS曲線とLM曲線がシフトする要因について復習しておくことが必要です。
	事後学修	変動相場制と固定相場制の違いや、財政・金融政策の効果が開放経済モデルを導入したIS-LMモデルでどのような変化が生じるか、作図して説明できるように理解を深めておきましょう。
10回	授業内容	物価水準と産出量: 総供給(AS)曲線と総需要(AD)曲線を導出し、物価水準と国民所得が同時に決定されるメカニズムについて説明します。
	事前学修	IS曲線とLM曲線がシフトする要因について復習しておくことが必要です。また、参考書を利用し、労働市場(雇用量の決定)について事前に調べておきましょう。
	事後学修	総供給(AS)曲線と総需要(AD)曲線の傾きなどの特徴や、シフト要因についてノートに整理し理解しておきましょう。
11回	授業内容	インフレーションと失業: 物価の変化と失業率の関係についてフィリップス曲線を中心に説明します。
	事前学修	物価の変化率と失業率にはどのような関係があるか事前に調べてみましょう。
	事後学修	短期のフィリップス曲線、長期のフィリップス曲線、スタグフレーション、オークンの法則などの重要な語句を理解しましょう。
12回	授業内容	経済成長の理論: 経済が成長する要因について、理論的に考察します。
	事前学修	今日の少子高齢化が経済成長にどのような影響を及ぼすのか事前に調べておくことが有益でしょう。
	事後学修	経済成長を説明する様々な理論の特徴について整理し、現実の経済成長の原因を自分なりに考察してみましょう。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)**

市販本	中谷巖『入門マクロ経済学』(第5版)日本評論社
市販本	福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』(第4版)有斐閣アルマ
通材	『経済学概論 R20300』通信教育教材(教材コード000244)

◆**成績評価基準** メディア授業の受講状況(10%)、理解度チェック(30%)、最終試験(60%)を総合的に判断し単位を認定します。ただし、理解度チェックが4回のうち、3回以上提出されていることを前提として評価します。

◇日本経済論 MB(開講単位数:2 単位)

担当者:佐久間 隆

充当科目コード : R31000

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 日本経済の特徴点について理解するためのトピックスを取り上げます。そして、経済学の基礎概念と経済データを用いて検討を加えます。

◆**学修到達目標** 日本経済論 MA（前期）と併せて履修することにより、次の2点を目指します。

- 1 日本経済の特徴や日本で行われている経済政策について説明できる。
- 2 日本経済の状況に変化が生じた際に、経済データや経済政策について自ら調べ考えることができる。

◆**授業方法** 基本的に教科書に沿って講義を行います。分かりやすく説明するため例示などで適宜補足したり、教科書出版後に公表された経済データや政策変更を紹介したりもします。自習のために課題を提示します。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業のねらい、教科書の特徴、授業の進め方などについて再確認します。日本の金融システムがバブル期前後でどのように変遷してきたかをみます。
	事 前 学 修	前期 MA の第 1 回のノートと教科書の関連部分を読み返して教科書、特に、後半がどのような構成になっているかを確認しましょう。教科書の 126-137 ページを読んでバブルの形成と崩壊の前と後の流れをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返した上で、バブルの形成と崩壊を経たことと金融システムの変貌との関係をフローチャートにしてください。自習課題として大手銀行の破綻事例について原因と取引企業への影響について調べてください。
2 回	授 業 内 容	米国の発端とするグローバル金融危機の経過と日本経済への影響を振り返り、危機後の金融規制の国際的な動きと日本での状況をみます。
	事 前 学 修	教科書の 137-144 ページを読んで、グローバル金融危機の発端から波及経路を追った上で、グローバル金融危機から日本経済が受けた影響や金融規制の転機となった理由をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。日本の金融機関への直接的影響が小さかった一方で実体経済への影響が大きかった理由について考察してください。自習課題としてマクロブルーデンス政策についての日本銀行の考え方と企業統治における機関投資家の役割について関連文書を読んでみましょう。
3 回	授 業 内 容	デフレに至った経過とデフレ下で次々と打ち出された金融政策を振り返ります。
	事 前 学 修	教科書の 147-159 ページを読んでデフレに陥ると金利政策ではデフレから抜け出すのが難しい理由をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。次々と打ち出された金融政策の新しい点を表に整理しましょう。自習課題として新たな政策を打ち出した際に日本銀行から出された資料を読んでみましょう。
4 回	授 業 内 容	非伝統的金融緩和の目的と波及効果、実施に伴うリスクについて考えます。
	事 前 学 修	教科書の 159-167 ページ読んで非伝統的金融緩和が伝統的金融政策とは違う点をつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返し、非伝統的金融緩和の理論的な可能性と実際の効果について考えてください。自習課題として日本銀行の政策変更前後で為替レート、株価、国債金利がどのようにに変化したか確認してみましょう。
5 回	授 業 内 容	日本の財政赤字や政府債務の現状を確認した上で政府債務が維持可能な条件を探求します。
	事 前 学 修	教科書の 169-179 ページを読んで政府財政が破綻するかどうかに関連してプライマリー・バランス (PB) の赤字がどのような意味を持つのか考えてください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。日本の政府債務がどの程度危機的な状況にあるのか考えてみてください。自習課題として国と地方の財政状況について最新の公式資料に目を通してみましょう。
6 回	授 業 内 容	財政破綻や債務危機とはどのような状況なのか、そして、そのような状況に陥らないでいられるかを判断する手法に基づいて日本の政府債務の維持可能性について考えます。
	事 前 学 修	教科書の 178-185 ページを読んで政府債務の維持可能性を判断する諸手法の理論的根拠と簡便さ故の限界を確認してください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。財政の維持可能性の判定結果を手法ごとに表にまとめてみましょう。自習課題として最新の政府資料で PB や債務残高の将来見通しがどうなっているか確認しましょう。これまでのノートと教科書の該当部分を読み返して 1 回目の理解度チェックに向け準備してください。
7 回	授 業 内 容	地域間格差の状況、地域振興政策における社会資本の役割についてみます。
	事 前 学 修	教科書の 188-195 ページを読んで全国的には地域間格差が縮小しているなかで東京が突出している状況と国の地域振興政策がどのような関係にあるのかつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。社会資本の傾斜配分が地域間格差の縮小に役割を果たしてきたことについて考察しましょう。自習課題として他の国の地域間格差との比較、最近の社会資本の配分状況をみてみましょう。
8 回	授 業 内 容	変貌を遂げた地域振興政策の状況と大地震災害と復興政策について考えます。
	事 前 学 修	教科書の 195-202 ページを読んで社会資本整備など地域振興政策にみられる変化と東日本大震災の被害地域の復興状況を確認してください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。今後の地域振興政策や復興政策のあり方について考察してください。自習課題として PPP/PFI 事業や構造改革特区の状況について調べましょう。
9 回	授 業 内 容	人口減少社会の到来と社会保障との関係および社会保障のしくみについて考えます。
	事 前 学 修	教科書の 205-210 ページを読んで人口減少が社会保障制度の賦課方式にどのような帰結を惹き起こすのかをつかんでください。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として最新の総人口や高齢化率の予測と教科書に載っている予測を比較してどう変化したかみてみましょう。

10回	授業内容	年金保険、医療保険、介護保険のしくみをみた上で社会保障制度改革の方向性について考えます。
	事前学修	教科書の211-221ページを読んで年金保険、医療保険、介護保険に存在する賦課方式的な要素を列挙してみてください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。人口減少の下で社会保障制度が抱える財政的困難を緩和する方策について考察してください。自習課題として社会保障制度改革の論点として何が重要かを考えてみましょう。第7回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して2回目の理解度チェックに向け準備してください。
11回	授業内容	日本の経常収支、貿易、直接投資などの対外経済関係についてみます。
	事前学修	教科書の223-230ページを読んで米国との貿易摩擦、欧米やアジアでの海外生産の拡大などがどの時期に生じたのか年代を追って整理してみましょう。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。日本の経常収支、貿易、直接投資に影響を与えた要因を日本の国際競争力の変化と関連付けて考察しましょう。自習課題として貿易や直接投資の最新のデータをみてみましょう。
12回	授業内容	日本の地域間貿易協定への取り組み状況とアジア経済拡大の影響についてみます。
	事前学修	教科書の230-240ページを読んで日本が多角的貿易交渉に軸足を置いていたところから地域間貿易協定へと移行した流れと近年のアジア経済との分業関係の変化をつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。自習課題として日本が締結した地域間貿易協定、あるいは、交渉中のものについての最新の情勢について外務省資料によって調べてみましょう。
13回	授業内容	アベノミクスの成果と限界について考えます。
	事前学修	教科書の242-250ページを読んでアベノミクスが当初どのように始まり、どの程度成果を上げたのか、その後のどう変遷してきたかをつかんでください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。金融緩和の限界が近づいている点について考察しましょう。自習課題としてについて政策当局の資料により最新の政策をみてみましょう。
14回	授業内容	これからの日本経済にとって必要な成長戦略について考察します。
	事前学修	教科書の250-258ページを読んでなぜ成長戦略が必要なのか考えてください。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読み返してください。労働市場改革が個別分野の改革よりも効果が期待できる理由について考えてみましょう。自習課題として「経済財政白書」に挑戦してみましょう。11回以降のノートと教科書の該当部分を読み返して3回目の理解度チェックに向けて準備してください。
15回	授業内容	各章の内容を振り返り、キーワード理解を確認します。また、最終レポート試験に向けての注意事項を説明します。
	事前学修	第1章から第14章まで履修済みであること、3回の理解度チェックをすべて終了していることを確認してください。
	事後学修	ノート全体と教科書第一部を読み返して理解が十分でないところを補ってください。

◆教科書 市販本 『日本経済論』 宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之著 中央経済社

◆参考書(参考文献等) 市販本 『岩波講座 日本経済の歴史第5巻』現代1 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店
市販本 『岩波講座 日本経済の歴史第6巻』現代2 深尾京司・中村尚史・中林真幸編 岩波書店
市販本 『やってみよう景気判断 指標でよみとく日本経済』 高安雄一著 学文社

◆成績評価基準 質疑応答、ディスカッションを含む受講状況(10%)、理解度チェック(30%)および最終レポート試験(60%)により総合的に評価します。

◇国際経済論 MB(開講単位数:2単位)**担当者:前野 高章**

充当科目コード: R31100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** このメディア授業では、国際マクロ経済学やその経済政策関連の内容について理論的な解説を中心に説明を進めていく。講義は、戦後の国際通貨秩序の確立や国際通貨制度の変遷、そして円高ドル安の国際経済現状を踏まえた外国為替問題も加えて逐次に解説していく。

◆**学修到達目標** 国際経済論において、国際収支の基本的な考え方や基礎理論、開放経済体系下の経済政策、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げること为目标とする。最終的には、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解することを目的とする。

◆**授業方法** インターネットを通じてメディア教材から学修をする。メディア授業の素材構成は本通信教育教材『国際経済論』の第3章と第4章に基づいている。国際経済論は応用経済学分野の科目であるため、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することを強く勧める。事前にマクロ経済学関連の基礎理論を復習すること。

◆授業計画

1 回	授業内容	国際取引と国際収支
	事前学修	教科書第3章の国際収支表に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
2 回	授業内容	外国為替市場と国際金融
	事前学修	教科書第3章の国際収支表に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
3 回	授業内容	経常収支と貿易弾力性
	事前学修	教科書第3章の外国貿易乗数と弾力性アプローチに関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
4 回	授業内容	国際収支と国内経済のマクロ的関連
	事前学修	教科書第3章の国際収支と国内経済のマクロ的関連に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
5 回	授業内容	円高日本経済と経常収支
	事前学修	教科書第3章の日本の国際収支と貯蓄・投資バランスに関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第1回から第5回までの講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
6 回	授業内容	マクロ経済分析の基礎
	事前学修	教科書第3章のIS-LM分析に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
7 回	授業内容	IS=LM=BP分析
	事前学修	教科書第3章のIS-LM-BP分析に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
8 回	授業内容	開放経済と経済政策
	事前学修	教科書第3章の資本移動と財政・金融政策に関連する箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第6回から第8回までの講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
9 回	授業内容	外国為替相場の決定メカニズム
	事前学修	教科書第3章の外国為替相場の理論の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
10 回	授業内容	為替相場の変動の実態経済に与える影響
	事前学修	第8回と第9回の内容を復習しておく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
11 回	授業内容	国際通貨制度
	事前学修	教科書第4章の金本位制度とブレトン・ウッズ体制の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。
12 回	授業内容	外国為替制度の選択
	事前学修	教科書第4章の外国為替制度とその選択の箇所を中心に読んでおく。
	事後学修	第9回から第12回までの講義内容をもとに、重要なポイントをノートに整理する。これまでまとめたノートを復習し、各回での重要なポイントを整理する。

◆**教科書** **【教材】** 『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード000281）

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 平常点60%（レポート形式の理解度チェック：40%、メディア授業の受講状況：20%）と最終試験40%による総合評価。

◇情報概論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:久東 義典

充 当 科 目 コー ド : R32300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 現代社会は、情報社会といわれます。いたるところにコンピュータの機能をもった電子機器が存在し、日常生活に変革をもたらしています。こうした「情報社会」のベースとなっている考え方をWebによる学習方法でいつでもどこでも実践的に（ユビキタスコンピューティングの体験しながら）、情報を科学的捉えること、情報を技術的に扱うこと、さらにはコミュニケーションの道具として理解することを実践的な内容で学習します。PCが利用でき、Webを閲覧できる環境にあること。

◆**学修到達目標** コンピュータ、インターネットをはじめとしたIT機器の歴史、現状、トレンド、技術に関する正しい知識を得ると共に、ビジネスや日常生活での利用において大切な「常識」を原理に基づいて身に着けることを目標にします。ITパスポート試験や基本技術者試験などの練習問題も取り入れているので、情報関連の資格試験の概略的な知識も得ることができます。

◆**授業方法** Webを用いた在宅学習で授業を実施していきます。受講者は、教科書の該当する章をよく読んでノートにまとめてから、Webでの学習を進めてください。毎回練習問題にトライし、さらに総合的・多面的に理解するため数回経ると理解度チェック（全4回）にトライします。これらが本当に理解できたかを最終試験として、レポート提出し、取り組みに対して総合評価します。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	コンピュータの基礎：私たちは、コンピュータとして意識しなくても、携帯電話やゲーム機などの広い意味でのコンピュータに触れる機会が多くなりました。今回は、コンピュータとは、そもそもどんなもので、どんな種類があるかを学習し、パソコンの初歩的な使い方を学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
2 回	授 業 内 容	文書作成：パソコンを使う目的は、ホームページを閲覧したり、ビデオや音楽を編集したり、年賀状を作成したりとさまざまです。今回は、その中でも学校や会社では必須のスキルであるワープロによる文書作成の方法について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
3 回	授 業 内 容	ファイルとフォルダ：パソコンを利用していると、すぐに文書が増えます。1箇所にたくさんの文書が置かれていると必要なものを探るのが困難になるので、分かり易いように整理しておくとう便利です。コンピュータではファイルやフォルダという物理的な書類整理の方法が利用できます。今回は、コンピュータ上でのファイル、フォルダとは何かを学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
4 回	授 業 内 容	プレゼンテーション資料作成：自分の主張を発表することをプレゼンテーションと言い、通常は資料を使って発表します。多くの場合は10分ないし30分程度の短い時間ですので、その中で要点をきれいに述べるには、事前に十分に検討された資料を用意しておく必要があります。今回は、プレゼンテーション資料作成ソフトの基本的な利用方法について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
5 回	授 業 内 容	インターネット利用：インターネットの利用形態の代表としてホームページ閲覧とメールの送受信があります。私たちは、どちらも携帯電話で日常的に利用しています。インターネットは世界中の人たちと情報をやりとりできる、すばらしい道具です。しかし、実際には相手の顔が見えない時に、現実の世界では決して言わないようなことまで言ってしまう場合があります。インターネットといえどもコンピュータの向こうには生身の人間がいることを想像しなければいけません。今回は、インターネットを利用する上で倫理的に注意しなければいけないことや法律上の知識について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
6 回	授 業 内 容	IT機器の現状：情報技術（IT:Information Technology）もしくは情報通信技術（ICT:Information and Communication Technology）は、日々新しいものにとって代わっています。簡単に言えば、これらは、私たちの生活にかかわるコンピュータとネットワーク上の技術全般のことを指します。今回は、身近なIT機器である携帯電話、DVD、薄型テレビ、デジタルカメラ等の現状と将来の方向性について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

7 回	授業内容	データ通信技術：ホームページの閲覧やメールの送受信などのインターネットをはじめとしたデータ通信技術とテレビ放送などの放送技術は、従来まったく違ったものと思われていましたが、デジタル化された現在では多くの技術が共通化されてきています。今回は、このような通信、放送の基礎となるデータ通信技術の基礎を理解することで、安全で効率的な利用法を学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
8 回	授業内容	ネットワーク：インターネットの利用法を知っている人でも、いざインターネットとは何かと聞かれると答えに困ることがあります。今回は、コンピュータネットワークにおけるインターネットの位置付けや、コンピュータネットワークの構成について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
9 回	授業内容	インターネット技術：郵便や電話などでは海外と通信すると利用料金は高額になりますが、インターネットでは、世界のどこにメールを送っても、どこのホームページを閲覧しても、一定の料金で利用できます。今回は、このような定額での利用を可能にしている技術的背景について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
10 回	授業内容	ビジネスにおけるインターネット利用：ホームページ閲覧やメール送受信などの日常生活で利用されるインターネットサービスは、ビジネスの中で大きな役割を果たしており、変化の速度は飛躍的に速くなってきています。今回は、電子商取引をはじめとしたビジネス界でのインターネット利用の現状を学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
11 回	授業内容	暗号化：インターネットを利用する上でさまざまな危険がありますが、これを回避するのに中心となる技術が暗号化です。今回は、暗号化の基礎概念について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。
12 回	授業内容	セキュリティ：ネットワークを利用することによって何らかの迷惑を被るとなれば、その対策を講じるのが、ごく自然のなりゆきと考えることができます。今回は、パソコンを使うユーザが知っておくべき具体的な対策について学習します。
	事前学修	練習問題は授業の内容をベースにしています。これに向けて、目次等を参考にテキストの該当箇所をよく読んでノートにまとめておくこと。
	事後学修	理解度チェックは応用的な問題を出題することがあります。理解度チェックにスムーズに対応するため参考書やWebなどを活用して、プラスアルファの知識を得ることで、授業の内容を総合的・多面的にとらえるように努めてください。

◆教科書 通材 『情報概論 R32300』通信教育教材（教材コード000453）

◆参考書(参考文献等) 市販本 ITパスポート試験教科書（出版社不問）
市販本 基本情報技術者試験教科書（出版社不問）

◆成績評価基準 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇商学総論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:金 雲鎬

充当科目コード : S20100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 商学部は1 学年以上, その他の学部は2 学年以上

◆**授業概要** この授業では、企業の革新的・戦略的行動に焦点を当て、より実践的テーマを扱いながら、前期に習った知識を深化することを目的とします。製販統合やPB開発、業態革新、卸売革新、CRM、ビッグデータ、EC、オムニチャネルなど、様々な流通現象を扱います。

◆**学修到達目標** マーケティングと流通システムの基礎概念と理論を理解して、自分の言葉でその概念や原理を説明できるようになることが学修到達目標です。

◆**授業方法** この授業は講義型授業です。講義内容の中で理解できないことがある場合に、繰り返して動画を再生することをお勧めします。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	マーケティング・マネジメント論の再考、マーケティング・ミックス、IMC
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
2 回	授 業 内 容	アイデア創出 & コンセプト開発
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
3 回	授 業 内 容	チャネル提案
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
4 回	授 業 内 容	小売業者による製販統合
	事前学修	参考書の第8章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
5 回	授 業 内 容	流通&IT①
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
6 回	授 業 内 容	小売業者によるPB開発
	事前学修	参考書の第9章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
7 回	授 業 内 容	流通&IT②
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
8 回	授 業 内 容	小売業態論①
	事前学修	参考書の第10章と第11章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
9 回	授 業 内 容	小売業態論②
	事前学修	参考書の第10章と第11章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
10 回	授 業 内 容	卸売流通①
	事前学修	参考書の第3章と第12章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
11 回	授 業 内 容	卸売流通②
	事前学修	参考書の第3章と第12章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
12 回	授 業 内 容	中小商業問題を考える
	事前学修	参考書の第13章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
13 回	授 業 内 容	流通&IT③
	事前学修	参考書の第4章を読んでください
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
14 回	授 業 内 容	流通&IT④
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください
15 回	授 業 内 容	総括
	事前学修	特にありません
	事後学修	講義内容の中で理解できないところは、動画を再生しながら復習してください

◆**教科書** 〔教材〕『商学総論 S20100』通信教育教材(教材コード 000356)

◆**参考書(参考文献等)** 〔市販本〕『現代商業学 新版』高嶋克義著 有斐閣アルマ

◆**成績評価基準** レポートによる評価を行います。

◇経営学 MB(開講単位数:2単位)

担当者:高橋 淑郎

充当科目コード: S20200

配当学科: 全学科・専攻

配当学年: 商学部は1学年以上, その他の学部は2学年以上

◆**授業概要** 現代社会において企業が果たしている役割やその影響力は大きい。企業経営のあり方如何が、国の経済力や国際的競争力のみならず、我々個々人の生き方や暮らしぶりを大きく左右する。一方、私たちと企業との関係を考えれば、①出資者として（金融市場）②従業員として（労働市場）③顧客として（製品・サービス市場）④地域社会のメンバーとして（市場以外）として関係している。さらに、企業、政府、非営利組織が主に社会の組織として機能している中で、企業経営の基本的仕組みとそれを活用してリアル・ワールドを感じて欲しい。

◆**学修到達目標** 現代社会における企業の存在感の大きさは圧倒的です。企業は1国の経済力の源泉であると同時に、私たちの日々の生活を支えています。企業は、私たちに豊かで便利な生活をもたらしてくれる反面、さまざまな不祥事、過労死など、深刻な問題も生み出しています。企業が倒産すれば、たんに経営者や従業員だけでなく、取引先や顧客も含め多くの関係者に甚大な影響を及ぼします。そこでこの講義では、現代社会を支えている企業の経営を、健全かつ有効に行うために必要な基礎知識を提供することを意図しています。具体的には、企業経営の主要職能について学んだ後、現代企業が取り組むべき重要な経営課題について検討します。

◆**授業方法** メディア授業

◆授業計画

	授 業 内 容	経営戦略と組織
1 回	事前学修	新聞、経済誌（日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、週刊エコノミストなど）を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	マーケティング
2 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	生産システムの進化
3 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	人的資源管理
4 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	動機付けとリーダーシップの理論
5 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	財務管理
6 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	日本型経営の特徴とその変容
7 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	中小企業とベンチャー企業
8 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	経営の国際化とグローバルゼーション
9 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	M & A
1 0 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	企業の社会的責任と企業倫理
1 1 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	企業評価「良い企業とは何か」
1 2 回	事前学修	新聞、経済誌を丹念に読み、授業で取り上げているテーマと関連する「生きた研究素材」を仕入れ、自分なりの見解を構築できるよう心がけてください。
	事後学修	参考図書、経営関係の雑誌などで、今日的话题なども含めて復習しておくこと
	授 業 内 容	

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 通材『経営学 S20200』通信教育教材（教材コード000497）

市販本『経営学検定試験公式テキスト1 経営学の基本』

経営学検定試験協議会監修、経営能力開発センター編 中央経済社

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に、受講状況や理解度チェックなどを加味し、総合的に評価します。

◇簿記論 I MB(開講単位数:2単位)

担当者:村井 秀樹

充当科目コード : S20300

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 商学部は1 学年以上, その他の学科・専攻は2 学年以上

◆**授業概要** 簿記の基本原理解は、今から500年程前のルネッサンス時期、イタリアのルカ・パチョリによって体系化された。今では、この複式簿記の基本原理解が全世界に普及している。本講義では、貸借対照表と損益計算書の基本構造と、資産、負債、資本(純資産)、収益、費用に含まれる勘定科目とその結びつきをしっかりと理解する。

◆**学修到達目標** 学修到達目標は、企業のさまざまな取引を複式簿記の原理にもとづいて仕訳し、財務諸表(貸借対照表、損益計算書)作成までの一連のプロセスを説明できることである。また、日商簿記検定試験3級の資格を取得できるようになる。

◆**授業方法** まず、各章の概要を「導入」で説明し、内容の説明、例題の解説、そして設定している問題を実際に解く。しかし、これだけでは不十分であるので、各人で市販されている問題集を利用して解いていただきたい。より多くの問題をこなせば、簿記に対する理解は格段に向上する。

◆授業計画

	授業内容	簿記の概要：必要性、生成・発展、種類
1 回	事前学修 事後学修	通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認をすること。
2 回	授業内容 事前学修 事後学修	当座預金取引・有価証券取引 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
3 回	授業内容 事前学修 事後学修	債権・債務取引と引当金の処理 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
4 回	授業内容 事前学修 事後学修	手形取引 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
5 回	授業内容 事前学修 事後学修	商品売買取引 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
6 回	授業内容 事前学修 事後学修	特殊商品売買取引 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
7 回	授業内容 事前学修 事後学修	固定資産・繰延資産 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
8 回	授業内容 事前学修 事後学修	株式会社取引（1） 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
9 回	授業内容 事前学修 事後学修	株式会社取引（2） 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
10 回	授業内容 事前学修 事後学修	本支店会計（1） 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
11 回	授業内容 事前学修 事後学修	本支店会計（2） 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
12 回	授業内容 事前学修 事後学修	伝票 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。
13 回	授業内容 事前学修 事後学修	決算 通信テキストをしっかりと読んでおく。 ポイントの確認と練習問題を必ず解くこと。

◆**教科書** 教材『簿記論I S20300』通信教育部教材(教材コード 000454)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『検定簿記講義 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社
市販本『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』 渡部・片山・北村編著 中央経済社

◆**成績評価基準** 受講状況を40%, 理解度チェックを20%, 最終試験を40%として総合的に成績評価を行う

◇貿易論 MB(開講単位数:2単位)

担当者:飯野 文

充当科目コード : S30400

配 当 学 科 : 全学科が対象

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 国境を越えてグローバルに行われる貿易は、貿易を促進・制限するような方策（貿易政策）により影響を受ける。本講義では、こうした貿易政策とは何か、何故必要なのか、また誰がどのような目的で行うのか、またその手段にはどのようなものがあるか、貿易政策はどのような制約を受けるのか、異なる貿易政策が衝突するとどうなるのか、ビジネス社会が行う貿易取引は貿易政策にどのような影響を受けるか等の疑問を紐解いていく。

◆**学修到達目標** 貿易政策の国際的枠組みや歴史的背景を学び、貿易に関する知識を身につける。それを踏まえて、現状を分析する能力を養う。貿易の現状に加え、貿易をめぐる諸課題（「非貿易的関心事項」等）、貿易紛争の実態についても学習する。講義全体を通じて、貿易に関連する問題発見・問題解決能力の養成に努める。

◆**授業方法** テキストに沿って貿易政策の概要・国際貿易体制・ルールを解説し、自己点検及び理解度チェックによって理解の定着をはかる。最終試験を実施し、理解の度合を測ると共に、習熟度合を測る。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	世界貿易の動向と国際貿易体制
	事 前 学 修	テキストの 129-147 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながらポイントを把握し、自己点検を実施すること／参考書『WTO・FTA法入門』を読み最近の動向も把握のこと
2 回	授 業 内 容	世界貿易機構(WTO)と貿易政策の諸手段①ー世界貿易機構(WTO)の全体像ー
	事 前 学 修	テキストの 149-164 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
3 回	授 業 内 容	世界貿易機構(WTO)と貿易政策の諸手段②ー関税と輸出入政策ー
	事 前 学 修	テキストの 164-175 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
4 回	授 業 内 容	GATTーWTOの基本原則①ー無差別原則ー
	事 前 学 修	テキストの 176-188 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
5 回	授 業 内 容	GATTーWTOの基本原則②
	事 前 学 修	テキストの 188-209 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
6 回	授 業 内 容	国内規制への対応
	事 前 学 修	テキストの 210-231 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
7 回	授 業 内 容	貿易自由化と貿易救済措置①
	事 前 学 修	テキストの 232-259 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
8 回	授 業 内 容	貿易自由化と貿易救済措置②
	事 前 学 修	テキストの 259-273 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
9 回	授 業 内 容	WTO体制下における規律分野の拡大
	事 前 学 修	テキストの 274-295 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
1 0 回	授 業 内 容	地域経済統合①ー地域経済統合の動向ー
	事 前 学 修	テキストの 296-308 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
1 1 回	授 業 内 容	地域経済統合②ー地域経済統合と WTO 協定との関係ー(原産地規則)
	事 前 学 修	テキストの 308-323 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること
1 2 回	授 業 内 容	貿易・投資紛争処理制度
	事 前 学 修	テキストの 324-346 頁を読んでおくこと
	事 後 学 修	347 頁からの学習指導書を見ながら重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること重要箇所を自分でノート等に整理すると共に、自己点検を実施すること

◆**教科書** 通材 『貿易論 S30400』 通信教育教材 (教材コード000439)

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『WTO・FTA・CPTPP』飯野文著 弘文堂 (2019)
市販本 『WTO・FTA法入門』小林・飯野他著 法律文化社 (2020年4月刊行)

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

充当科目コード : S30900

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、マスメディアや広告コンセプト、ロコミについても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。広告論 (MA) からの継続受講が前提である。

◆**学修到達目標** 1. プロモーション活動の一要素である広告が様々な企業、組織、及び個人の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解できるようになる。2. 製品・サービスを市場投下する際に、どのような広告活動によって消費者に認知されるべきかを検討し、当該ブランドをどのように育成していくべきかを理解できるようになる。3. 人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点で理解できる事を心掛ける。

◆**授業方法** 収録されている授業をよく聞いて理解するように心掛けてください。必ずノートを取りながら受講してください。作成したノートを見ながら理解度チェックの課題にのぞんでください。MA からの継続履修を前提としていますが、初めて学ぶ人にも理解できるように前半はマーケティング・マネジメントの基本理論及び企業戦略を MA とは別の観点で説明しています。マーケティング・フレームワークの一要素である広告の位置づけや機能を理解して、様々な広告の理論を学んでください。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	マーケティング・マネジメントにおける 4P と 2P
	事 前 学 修	テキスト第 1 章を再読し、MA のノート全体を見返しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、管理可能変数と管理不可能変数の関係を把握しておくこと。
2 回	授 業 内 容	マーケット・セグメンテーション
	事 前 学 修	前回の授業のノートを読み返して、その内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、市場細分化の方法、市場の種類を理解しておくこと。
3 回	授 業 内 容	イールド・マネジメント
	事 前 学 修	前回の授業のノートを読み返して、その内容を確認しておくこと。また MA 第 2 回の「価格」の授業内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキスト 98～103 頁における「イールド・マネジメント」の内容、テキスト 204～209 頁における「ニーズ」と「ウォンツ」の内容を理解しておくこと。
4 回	授 業 内 容	製品の類型と機能
	事 前 学 修	テキスト 171～175 頁をよく読んでおくこと。また、MA 第 12 回の授業内容をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、「計画的陳腐化」の内容、「セカンド・マーケット」を理解しておくこと。
5 回	授 業 内 容	サービスの機能
	事 前 学 修	テキスト 116～131 頁をよく読み、MA 第 1 回のサービスの部分をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、サービスの定義を理解しておくこと。
6 回	授 業 内 容	価格
	事 前 学 修	MA 第 2 回の心理的価格の部分をノートで見返しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、「自我関与」の内容を理解しておくこと。
7 回	授 業 内 容	流通戦略と流通機能
	事 前 学 修	MA 第 3 回の授業内容をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、流通戦略の種類を把握しておくこと。
8 回	授 業 内 容	卸売業と小売業
	事 前 学 修	MA 第 3 回の「小売業の種類」と「取引数削減の原理」をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、ABC 分析と GRP の関係性を理解しておくこと。
9 回	授 業 内 容	プロモーションと広告
	事 前 学 修	テキスト第 1 章、テキスト 41～50 頁、テキスト 175～182 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、「広告目的の設定」と「広告予算」を理解しておくこと。
10 回	授 業 内 容	広告メッセージとメディア選択
	事 前 学 修	MA 第 5 回のノートを見直し、「広告の種類」を確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、「投影技法」の方法と、メディアの特性を理解しておくこと。
11 回	授 業 内 容	広告メディアと効果測定
	事 前 学 修	前回の授業のノートを読み返して、その内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、各広告メディアの特性を理解し、広告効果測定の意義を理解すること。
12 回	授 業 内 容	ロコミとマス・コミュニケーション
	事 前 学 修	MA 第 14 回の「採用者カテゴリー分布」をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、ロコミと商品の関係を理解しておくこと。
13 回	授 業 内 容	戦略としてのロコミ
	事 前 学 修	前回の授業の内容をノートで確認しておくこと。また、テキスト 57～67 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、ロコミの特徴を理解しておくこと。
14 回	授 業 内 容	時間の概念と広告
	事 前 学 修	前回の授業における、「広告コンセプト」の内容をノートで確認しつつ、テキスト第 3 章と第 4 章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、生活時間の把握を理解しておくこと。
15 回	授 業 内 容	広告論 MB の総復習
	事 前 学 修	今までの授業内容をノートで確認しておくこと。
	事 後 学 修	MA 及び MB のノートを確認して、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解すること。

◆**教科書** 市販本 『広告コミュニケーション』 雨宮史卓 八千代出版

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 全ての単元を受講していることが評価の前提条件となります。その上で、理解度チェック (30%)、最終試験 (70%) で評価をします。

◇現代教職論 M(開講単位数:2単位)

担当者:古賀 徹

充当科目コード: T10100

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆**学修到達目標** 次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】

◆**授業方法** コンテンツを視聴し、参考文献等も活用しながら教材の内容について考え深める。教材内の書き込み欄や理解度チェック等により理解度を確認する。各種の掲示板を使って質疑応答もできる。

◆授業計画

1 回	授業内容	教職の教育—教員養成と現職教員の成長
	事前学修	自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。
	事後学修	コンテンツの内容を5分程度で概説できるように(短い論述で)まとめる。
2 回	授業内容	教師の仕事—教科指導・生活指導・学級経営
	事前学修	次の用語でイメージできることを書き出しておく。「校務分掌」「教科指導」「生活指導」。
	事後学修	「学校の存在意義」(教科指導・生活指導)について説明文を(短い論述で)まとめる。
3 回	授業内容	子ども(生徒)とのかかわり—生徒理解と授業の前提条件
	事前学修	「わかる」(理解する)とはどのようなことか。その説明概念を(複数)考えておく。
	事後学修	学校でのコミュニケーションの意味や意義について(短い論述で)まとめる。
4 回	授業内容	様々な集団への対応(1)—集団活動を通じて学んでいく生徒たち
	事前学修	「総合的な学習の時間」の目標や意義は何かについて、メモとして書き出しておく。
	事後学修	「集団で学ぶ」ことを指導していくことの大切さや難しさについて説明文を書く。
5 回	授業内容	様々な集団への対応(2)—集団指導・グループ学修の方法論
	事前学修	集団指導の意義や難しさ(問題点)について、イメージすることをメモで用意しておく。
	事後学修	コンテンツの内容について感想をまとめて「集団指導の意義」について論述する。
6 回	授業内容	最近の子ども事情(1)—非行・ストレス・いじめ
	事前学修	青少年の「非行」や「いじめ」について、白書や記事等のデータ類を探して読んでおく。
	事後学修	青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7 回	授業内容	最近の子ども事情(2)—不登校への対応
	事前学修	「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修	青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
8 回	授業内容	教員養成の歴史(1)—戦前の教員養成
	事前学修	明治期(近代化の当初)の教育について、文献(事典等もあり)を読んでおく。
	事後学修	近代教育の展開を理解し、まとめる(文章で表現する)。
9 回	授業内容	教員養成の歴史(2)—戦後の教員養成
	事前学修	戦後の教育に関する概説書を読んでおく。
	事後学修	戦時期から戦後の教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる。
10 回	授業内容	世界の教員養成
	事前学修	日本以外の国の「教育(学校)」についてイメージをまとめるメモを用意する。
	事後学修	欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
11 回	授業内容	教員に関する法令—地位、身分、研修、免許更新制
	事前学修	各種文献に載っている「法令」類を一読しておく。
	事後学修	教員養成ではなく「講習」のもつ意味や意義について説明文を書く。
12 回	授業内容	教室に立つために—教育実習と学修指導案の構成
	事前学修	自身が実習で教壇に立つことをイメージして指導計画デザインのメモを記す。
	事後学修	学習指導案づくりに慣れるため、様々な内容・範囲の授業案を作成する。

◆**教科書** 教材『現代教職論 T10100』通信教育教材(教材コード 000541)

◆**参考書(参考文献等)** 『求められる教師像と教員養成』 山崎英則・西村正登編 ミネルヴァ書房
『転換期の教師』 油布佐和子著 放送大学教材

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価します。

◇教育原論／教育の思想 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充 当 科 目 コー ド : 2 0 1 1 年 度 1 学 年 入 学 , 2 0 1 2 年 度 1 学 年 入 学 , 2 学 年 編 ・ 再 入 学 ,
2 0 1 3 年 度 1 学 年 入 学 , 2 ・ 3 学 年 編 ・ 再 入 学 , 2 0 1 4 年 度 以 降 の 入 学 生 及 び
科 目 履 修 生 は T10200 (教 育 原 論)
上 記 以 外 の 学 生 は T10300 (教 育 の 思 想)

配 当 学 科 : 全 学 科 ・ 専 攻

配 当 学 年 : 2 学 年 以 上

◆**授業概要** 主たる教育思想家の核となる教育思想について理解を深めながら、全体として教育思想の歴史的系譜を理解したい。とりわけ、近代教育の中心的テーマである人間の内面形成、近代的な教授学思想、新教育運動、公教育の成立と発展など、重要なテーマに関する教育思想の内容を理解する。教育思想に関連する「ビデオ」や資料などを参考にして、より深く教育思想を理解するとともに、現代的な教育問題との関連についても理解を深めることとする。

◆**学修到達目標** 現代の教育問題を考える上で、教育思想の歴史的展開を学ぶことは重要である。教育の様々な問題を思想的に学びながら「教育とは何か」を自覚的に問いたいと考える。特に、教育の目的論（人間の内面形成）と教授学思想（一斉教授と個別教授）の展開を中心としながら、国民教育論、新教育理論、脱学校論なども取り上げる予定である。

◆**授業方法** ○テキストの主要課題について理解を深めながら、教育思想を理解したい。討論も行う。その他には、「ビデオ」も鑑賞し、学力問題、フリー・スクールなどの現代的な問題にも理解を深めることとする。授業内で簡単なレポート作成と課題報告も行う。最後には、学習内容に関する最終試験を行う。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	なぜ、教育思想を学ぶのか—現代教育の課題と教育思想を学ぶ意味—
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	あなたの考える現代教育の課題と問題点をノートにまとめること。
2 回	授 業 内 容	コメニウスの教授学—一斉教授の方法—
	事前学修	テキストの第1章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
3 回	授 業 内 容	ロック自律論—人間の理性による自律—
	事前学修	テキストの第2章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
4 回	授 業 内 容	ルソーの市民教育—子どもの発見—
	事前学修	テキストの第3章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
5 回	授 業 内 容	ベスタロッチの人間教育—直観教授の発見—
	事前学修	テキストの第4章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
6 回	授 業 内 容	ヘルバルトの科学的教育学—教授過程の定型化—
	事前学修	テキストの第5章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
7 回	授 業 内 容	フレーベルの幼児教育—幼稚園の創設—
	事前学修	テキストの第6章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
8 回	授 業 内 容	マンの公教育普及論—教育を受ける権利思想—
	事前学修	テキストの第7章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
9 回	授 業 内 容	デューイの新教育思想—児童中心の教育—
	事前学修	テキストの第8章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 0 回	授 業 内 容	ニールの自由主義教育論—フリー・スクールの創設者—
	事前学修	テキストの第9章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 1 回	授 業 内 容	ブーバーの教育的出会い—教師と子どもとの関係—
	事前学修	テキストの第10章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 2 回	授 業 内 容	イリイチの脱学校論—自由な学習機会の保障—
	事前学修	テキストの第12章を中心に予め読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。

◆**教科書** 市販本『教育思想のルーツを求めて』 関川悦男・北野秋男著 啓明出版

◆**参考書(参考文献等)** 特になし

◆**成績評価基準** 授業への参画（20％）、理解度チェック（30％）、最終試験（50％）で総合的に判断します。

◇教育制度論 M(開講単位数:2単位)

担当者:北野 秋男

充当科目コード:T20200

配 当 学 科 : 全学科・専攻

配 当 学 年 : 2 学年以上

◆**授業概要** 現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、以下のトピックを取り上げ、多角的な授業を展開する。トピックの容は、近代公教育制度の成立（教育の権利と義務）、現代の学校を取り巻く制度改革や地域との連携、教師職務と専門性、学力と評価制度、教育委員会制度の改革、学校と地域の連携（コミュニティ・スクール）、学校安全への対応などである。現代の教育制度改革の理念や背景を理解したい。

◆**学修到達目標** 現代の国内外の学校制度改革の様々な動向を、基礎的事項や用語を中心に、分かりやすく解説する。その際に、社会の状況や歴史的背景を理解し、その変化が現代の学校教育にもたらす影響や課題を検討する。また、現代の学校教育を取り巻く様々な問題への理解を確実なものとするために、政治・経済・福祉・文化などの社会的観点からのアプローチも取り入れ、教育に関する広範囲で深い視野を育成しつつ、教育への基礎的・基本的な視座を養うことを目標にする。

◆**授業方法** テキストを事前に丁寧に読んでおくこと。その際には、日本の教育制度の特徴や問題点を念頭に置きながら読み進めること。新自由主義的な方向へと進む、我が国の教育制度改革の全体像を大まかに理解しておくこと。

◆授業計画

	授 業 内 容	ガイダンス、全体の授業構成、課題の説明、評価方法など、
1 回	事前学修	シラバスをよく読み、テキストを購入し、「はじめに」を読んでおくこと。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
2 回	授 業 内 容	教育の権利と義務、学習権思想、「憲法」や「教育基本法」の理解
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
3 回	授 業 内 容	近代公教育制度の成立と展開
	事前学修	テキストの序章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
4 回	授 業 内 容	学校選択制度の実態と賛否
	事前学修	テキストの第 1 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
5 回	授 業 内 容	学級の運営と経営、学級制度の歴史
	事前学修	テキストの第 2 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
6 回	授 業 内 容	教師の職務と専門性（教師の多忙化）
	事前学修	テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
7 回	授 業 内 容	学習指導要領と学力観の変遷
	事前学修	テキストの第 3 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
8 回	授 業 内 容	教育委員会制度改革の歴史
	事前学修	テキストの第 4 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
9 回	授 業 内 容	学校・教師と保護者・地域の連携（コミュニティ・スクール設置の経緯）
	事前学修	テキストの第 5 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 0 回	授 業 内 容	コミュニティ・スクールの全国的動向と実践事例
	事前学修	参考書を使って、全国的な動向や実態を調べておこう。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 1 回	授 業 内 容	学力の評価制度
	事前学修	テキストの第 6 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 2 回	授 業 内 容	格差社会の現状と背景、格差と教育・学力への影響
	事前学修	テキストの第 7 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 3 回	授 業 内 容	特別支援教育の制度と理念
	事前学修	テキストの第 8 章を中心に予め読んでおくこと
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 4 回	授 業 内 容	学校の事件・事故・災害と学校安全への取り組み
	事前学修	過去の自然災害、学校内のいじめや暴力など、学校の安全に関する問題を調べる。
	事後学修	授業の要点と課題をノートにまとめること。
1 5 回	授 業 内 容	社会・教育における課題、授業の総括
	事前学修	テキスト、授業用のノートを丁寧に復習しておくこと。
	事後学修	解答できなかった不明な個所を確認し、復習しておくこと。

◆**教科書** 『教育学へのアプローチ～教育と社会を考える18の課題～』 北野秋男編著 啓明出版

◆**参考書(参考文献等)** 『地域運営学校成功への道しるべ』 北野秋男編著 ぎょうせい

◆**成績評価基準** 授業への参画（20％）、理解度チェック（30％）、最終試験（50％）で総合的に判断します。

◇特別活動・総合的な学習の時間の指導法 M（開講単位数:2単位）

担当者:今泉 朝雄

充当科目コード：T23400（特別活動・総合的な学習の時間の指導法）

配 当 学 科：全学科・専攻

配 当 学 年：2 学年以上

◆**授業概要** 「特別活動」と「総合的な学習の時間」は、教科の学習だけでは育成できない児童・生徒の資質・能力を育む機能を持っています。授業では、実践事例を紹介しながら、「特別活動」と「総合的な学習の時間」の実際の指導法が体得できるよう説明します。さらに、講義・演習・グループ討議等、実践につながる指導を行い、実践力の育成を行います。理論と実践を融合した授業を目指します。

◆**学修到達目標** 特別活動と総合的な学習の時間に関する基礎的な知識が説明できる。学習指導要領改訂の趣旨と要点を説明できる。教育課程における特別活動と総合的な学習の時間の位置付けと各教科等との関連を説明できる。特別活動と総合的な学習の時間の指導計画の作成ができる。具体的な指導法を構成できる。学習活動の基本的な評価ができる。

◆**授業方法** 講義のみではなく、実際の活動、事例検討、計画案作成作業など能動的学習を積極的に行う。

◆**授業計画**

1 回	授業内容	本科目のイントロダクション、特別活動とは何か
	事前学修	本時のシラバスを確認しておく
	事後学修	本時で学んだ言葉の定義を自身なりに整理する。両者の教育的意義を整理する。
2 回	授業内容	特別活動の教育的意義
	事前学修	自身の経験を振り返り、特別活動がどんな意味があったかを考える。
	事後学修	特別活動の教育的意義について自身なりの言葉で整理する
3 回	授業内容	特別活動の歴史から特徴を理解する
	事前学修	戦後教育改革の歴史を概略的に把握しておく。
	事後学修	戦前、戦後の特別活動の歴史について整理してまとめる。
4 回	授業内容	学習指導要領における特別活動の位置付けと指導計画の基礎
	事前学修	学習指導要領とは何か、概要を把握しておく。
	事後学修	学級活動の目標、内容を中心に自身なりに分かりやすく簡潔に整理する。
5 回	授業内容	学級活動の指導方法
	事前学修	学級活動の経験を思い起こして何をしたかまとめておく。
	事後学修	学級活動の目標、内容を中心に自身なりに分かりやすく簡潔に整理する。
6 回	授業内容	話し合い活動の指導方法
	事前学修	話し合い活動はどのようにしたらうまくいくか、経験を元に考える。
	事後学修	学級活動に於ける話し合い活動の意義について自身なりの考えをまとめる。
7 回	授業内容	学校行事の指導方法
	事前学修	運動会、修学旅行など学校行事の意義について自身なりの見解をまとめておく。
	事後学修	学習指導要領の位置付けを踏まえながら、学校行事の構成方法を検討してみる。
8 回	授業内容	生徒会の指導方法
	事前学修	自身の生徒会の経験をまとめておく。
	事後学修	授業を踏まえてあなたのこれまでの教育体験の教育的意義を整理してまとめる。
9 回	授業内容	総合的な学習とは何か
	事前学修	過去の総合的な学習の内容について振り返りまとめておく。
	事後学修	本時で学んだ総合的な学習の特徴と過去の経験との相違点をまとめる
1 0 回	授業内容	学習指導要領における総合的な学習の位置づけ
	事前学修	総合的な学習がどのような教育的意義を持つものなのか、自身なりに検討する
	事後学修	本時の内容を踏まえ、目標、内容の特徴を整理する。
1 1 回	授業内容	総合的な学習の全体計画
	事前学修	過去に経験した総合的な学習の全体計画をまとめてみる。
	事後学修	ネット上から計画案を探し、自身なりに特徴をまとめてみる。
1 2 回	授業内容	総合的な学習の指導方法
	事前学修	主体的探究とはどのように行えば良いのか、自身なりに検討する。
	事後学修	本時の内容をこれまで見てきた指導計画に照らし合わせて具体化してみる。
1 3 回	授業内容	総合的な学習の指導方法 2 ～事例から検討する～
	事前学修	前回の内容を具体化するにはどうしたらよいか、検討してまとめる。
	事後学修	本時の内容を参考に、指導方法の具体化を更に深める。
1 4 回	授業内容	特別活動・総合的な学習の評価方法
	事前学修	教育評価とは何か、事前に自身なりに学習をする。
	事後学修	これまで学んできた指導計画を元にその評価方法を検討する。
1 5 回	授業内容	部活動とその課題 / おわりに
	事前学修	部活動の自身の経験を踏まえ、どのような教育的意義と課題があったかをまとめる。
	事後学修	部活動の抱える課題について自身なりの見解をまとめる。

◆**教科書** 特になし。

◆**参考書(参考文献等)** 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年、『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間』2017年、関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的な学習の理論と指導法』弘文堂 2019年 2000円（税別）

◆**成績評価基準** 理解度チェック(40%)、最終レポート(60%)。

◆**備考** 本講座は積み重ねての単位取得はできません。

◇教育の方法・技術論MA(開講単位数:2単位)

担当者:壽福 隆人

充当科目コード:T21700

配当学科:全学科・専攻

配当学年:2学年以上

◆**授業概要** 学習指導要領に示されているこれからの日本青年に求められる資質・能力を育成するために、情報機器を活用した授業展開ができる教師の育成めざし、教育方法学、教育技術論の基礎を理解する。

◆**学修到達目標** 教育方法に関する理論の展開を歴史的に理解して、今日の学校教育に必要な基礎的・基本的な教授法と技術に関する知識を獲得できるように学修する。さらに、これからの学校教育に求められる課題に対応できるよう、教育機器を利用した授業、討論など生徒が主体的に考える授業を積極的に展開していける教師となるための具体的教授法を身につける。

◆**授業方法** メディア講義における説明を理解するだけでは本講義の目的を達成するためには達成されない。インターネット上で紹介されている様々な学習指導案や授業展開の方法を自ら検索して、講義内容の意味を確認していく必要がある。

◆授業計画

	授業内容	教育方法学とはどんな学問か
1回	事前学修	教育原論などこれまでの教職課程科目で学んだことをまとめる
	事後学修	教育方法学の概念についてテキストを参考としてまとめる
2回	授業内容	わが国の教育方法学研究の歴史
	事前学修	わが国の近代公教育の歴史についてまとめる
	事後学修	わが国の近代公教育に影響した教育方法学についてまとめる
3回	授業内容	学校教育とカリキュラム
	事前学修	各自の学校歴のなかで「時間割」とはどんなものだったかまとめる
	事後学修	カリキュラムの意味・意義についてまとめる
4回	授業内容	授業の形態と集団の編成・指導
	事前学修	学年・学級・班など学校に見られる集団にはどのようなものがあるかまとめる
	事後学修	学習集団が持つ意味を考える
5回	授業内容	授業形態の多様化
	事前学修	各自の学校歴のなかでどのような授業形態があったか思い出してまとめる
	事後学修	講義形式以外のさまざまな授業形態はそれぞれどのような意味を持っていたか考える
6回	授業内容	学級編成と学級運営
	事前学修	各自の学校歴の中から担任の先生の学級運営に関する工夫について思い出す
	事後学修	学級の役割について考える
7回	授業内容	小集団指導
	事前学修	各自の学校歴のなかで経験した小グループの活動について考える
	事後学修	小集団編成による指導方法の意義について考える
8回	授業内容	教育の技術とはなにか
	事前学修	「方法」と「技術」の違いについて考える
	事後学修	テキストを参考にして「技術」を支える思想について考える
9回	授業内容	授業の展開
	事前学修	各自の学校歴のなかでもっとも楽しかった授業の特徴について考える
	事後学修	インターネット上に公開されている様々な授業を検索して授業について考える
10回	授業内容	授業の展開を豊かにする物的手段
	事前学修	各自の学校歴のなかで経験がある教具についてまとめる
	事後学修	授業のなかで教具が果たす役割について考える
11回	授業内容	教育評価
	事前学修	各自の学校歴のなかで成績表にはどのようなものがあったかまとめる
	事後学修	教育評価が生徒に与える影響について考える
12回	授業内容	教育評価の方法
	事前学修	点数法・序列法・偏差値法など評価表記の方法について調べる
	事後学修	適切な評価方法について考える
13回	授業内容	ICT教育の現状と課題
	事前学修	ICT教育に用いられる教具にはどのようなものがあるか調べる
	事後学修	ICT教育の将来について考える
14回	授業内容	学校のICT教育の取り組み
	事前学修	学校で実践されているICT教育の実態を調べてみる。
	事後学修	学校教育用に開発されたICT教育用教材を収集する。
15回	授業内容	企業のICT教育の取り組み
	事前学修	企業が用いているICT教育の実態を調べる。
	事後学修	企業が用いているICT教育教材を収集する。

◆**教科書** 市販本 『新訂増補 歴史教育の課題と教育の方法・技術』 壽福隆人監修 DTP出版

◆**参考書(参考文献等)** 市販本 『教育の方法と技術一改訂版』 柴田義松編集 学文社

市販本 『教育方法学』 佐藤学 岩波出版

市販本 『授業』 斎藤喜博 国土社

◆**成績評価基準** 最終試験を中心に、受講状況・理解度チェックを加味し、総合的に評価する。

◇国文学演習 MA(開講単位数:1単位)

担当者:近藤 健史

充当科目コード:M404S0 (国文学演習Ⅰ)
M405S0 (国文学演習Ⅱ)
M406S0 (国文学演習Ⅲ)
M407S0 (国文学演習Ⅳ)
M408S0 (国文学演習Ⅴ)
M409S0 (国文学演習Ⅵ)

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科:文理学部文学専攻(国文学)のみ

配当学年:3学年以上

◆**授業概要** 前半は、国文学演習入門、万葉集入門、説話文学入門のコンテンツを視聴して、国文学の基礎や研究方法を学修する。後半は、課題設定してあるテーマについて、調査・研究して口頭発表、全体討論をする。

◆**学修到達目標** 演習を通して、調査・研究の方法、発表資料の作成、ディスカッションの仕方などを学修し、国文学を研究するために必要な基礎を身につけ、自分の意見や研究成果を発表できることを目標とする。

◆**授業方法** e-ラーニングを利用したメディア授業である。前半は、メディアを利用した基礎的な内容の講義である。後半は、数人でグループを作り、課題のテーマについてグループディスカッションにより調査・研究し、発表資料などを作成して発表する。発表についての全体討論を行う。司会者は、全体討論が円滑に進むように努める。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに(授業計画, 教員紹介など)について講義する。
	事前学修	インターネットの環境, 授業計画を確認しておくこと。
	事後学修	授業のねらいと構成などを確認しておくこと。
2回	授業内容	国文学演習入門について講義する。
	事前学修	グループディスカッション, 発表報告・全体討論の形式であることを理解すること。
	事後学修	演習の基本的なことを確認しておくこと。
3回	授業内容	万葉集入門について講義する。
	事前学修	万葉集の基本的なことを確認し, 各グループで発表について相談・準備を始めること。
	事後学修	万葉集入門で学修したことについて, 万葉集のテキストで確認しておくこと。
4回	授業内容	説話歌入門について講義する。
	事前学修	参考文献などにより, 説話歌について理解しておくこと。
	事後学修	事前学修内容と授業内容について照合して理解しておくこと。
5回	授業内容	テーマ1について, 発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
6回	授業内容	テーマ2について, 発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表の内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
7回	授業内容	テーマ3について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
8回	授業内容	テーマ4について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
9回	授業内容	テーマ5について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
10回	授業内容	テーマ6について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
11回	授業内容	テーマ7について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。
12回	授業内容	テーマ8について発表, 全体討論をする。
	事前学修	グループで話し合い, 発表の準備をしておくこと。
	事後学修	発表内容, 全体討論の質問や意見を検討。レポート作成の準備をしておくこと。

◆**教科書** 市販本『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『上代説話事典』大久保・乾編 雄山閣
市販本『万葉集ハンドブック』多田一臣編 三省堂

◆**成績評価基準** 発表80%, 全体討論20%

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇哲学演習 MA（開講単位数:1 単位）

担当者:中澤 瞳

充当科目コード : P401S0（哲学演習Ⅰ）, P402S0（哲学演習Ⅱ）

※各自の履修状況により指定してください。

配 当 学 科 : 哲学専攻

配 当 学 年 : 3 学年以上

◆**授業概要** 哲学演習 MA は、卒業論文制作に向けての演習授業である。この演習は、「哲学」演習という名前ではあるが、「倫理学」や「宗教学」の分野での卒業論文執筆を考えている学生にとっても有益である。なぜなら、本演習を通して、学ぶ論文の形式や作成方法は、非常に基礎的なものだからである。したがって、「哲学」専攻の学生のための「演習」と考えていただければと思う。

◆**学修到達目標** この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学び、卒業論文の制作を進めていく。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げるのに役立てる。

◆**授業方法** この演習は、講義と実践を組み合わせで行う。

◆授業計画

	授 業 内 容	哲学演習 MA のねらい
1 回	事前学修	卒業論文でどのような題材を扱うか考える。
	事後学修	授業を復習し、卒業論文について理解を深める。また、授業の最後に提出した課題を検討する。
2 回	授 業 内 容	論文とはどのような文章表現か
	事前学修	論文にはどのような特徴があるか、他の文章表現とは何が違うか考える。
3 回	事後学修	手近にある、論文以外の色々な文章を読んで、論文という形式について理解を深める。
	授 業 内 容	論文の構成
4 回	事前学修	前回の授業を復習し、論文の特徴を改めて把握する。
	事後学修	授業を復習し、自分の卒業論文で扱う予定の題材を元に、論文の構成をイメージする。
5 回	授 業 内 容	問題と主張と論拠について
	事前学修	前回の授業を復習し、論文の構成についての理解を深める。
6 回	事後学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠を練り上げる。
	授 業 内 容	発表1 問題と主張と論拠を作る
7 回	事前学修	自分の卒業論文の問題、主張、論拠をどのようなものにするか考える。
	事後学修	相互評価を通じて、他の人の問題と主張と論拠を参照し、自分の問題、主張、論拠を練り上げる。
8 回	授 業 内 容	先行研究を調べる
	事前学修	文献を探すにはどのような方法があるか考える。
9 回	事後学修	授業で取り上げた調査方法などを使用し、自分の卒業論文に必要な先行研究を調べる。
	授 業 内 容	説明を考える
10 回	事前学修	自分の意見を的確に相手に伝えるためには、どのような説明の仕方があるか考える。
	事後学修	説明の仕方に気をつけて、文章を書いたり、また他人の文章を読んだりする練習をする。
11 回	授 業 内 容	アウトラインを作る
	事前学修	第4回を振り返り、自分の卒業論文の問題、主張、論拠を確認する。
12 回	事後学修	最終発表で、アウトラインの提出があるので、今回の授業を復習し、自分の卒業論文の問題、主張、論拠をもとに、アウトラインの内容を掘り下げる。
	授 業 内 容	体裁を整える
13 回	事前学修	注や参考文献表とはどのようなものか調べる。
	事後学修	授業を復習し、注や参考文献表を作成できるようにする。
14 回	授 業 内 容	発表2 参考文献表の作成
	事前学修	第6回を振り返り、自分の卒業論文に必要な先行研究を改めて調査する。
15 回	事後学修	参考文献の書き方を覚え、いつでも作成できるようにする。
	授 業 内 容	パラグラフについて
16 回	事前学修	パラグラフとはなにか調べる。
	事後学修	文献を読むときには、パラグラフごとに読むこと意識し、また自分で文章を作成する際にも、パラグラフを意識して書けるようにする。
17 回	授 業 内 容	要約を作る
	事前学修	文章を短くすることと、要約との違いを考える。
18 回	事後学修	第14回で要約の提出があるので、要約を作る練習をする。
	授 業 内 容	批判的な視点をもつ
19 回	事前学修	批判的な視点とはどのような視点なのか考える。
	事後学修	批判的な視点から読んだり、書いたりできるように練習する。
20 回	授 業 内 容	発表3 パラグラフを意識しながら、要約を作る
	事前学修	第11回、第12回を振り返り、パラグラフについての理解と要約の作り方を確認する。
21 回	事後学修	相互評価を通じて、他の人の要約を参照し、わかりやすい要約とはどのような要約か考える。
	授 業 内 容	最終発表 アウトラインを作る
22 回	事前学修	第4回、第8回を振り返り、自分の問題、主張、論拠を確認し、またアウトラインの作成の仕方を確認する。
	事後学修	今回のアウトラインを土台として、卒業論文のアウトラインを深める。

◆**教科書** 特になし

◆**参考書(参考文献等)** 市販本『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』 戸田山和久 NHK出版
市販本『新版 論理トレーニング』野矢茂樹著 産業図書 2006年
市販本『生命倫理のレポート・論文を書く』松原洋子・伊吹友秀編 東京大学出版会 2018年

◆**成績評価基準** 3回の発表と最終発表（相互評価が必要な場合はそれを含む）を中心に、受講状況、質疑応答内容などを加えて、総合的に評価する。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。

◇日本史演習 MA（開講単位数:1単位）

担当者:鍋本 由徳

充当科目コード: Q401S0（日本史演習Ⅰ）、Q402S0（日本史演習Ⅱ）

※各自の履修状況により指定してください。

配当学科: 文理学部史学専攻のみ

配当学年: 3 学年以上

◆**授業概要** 本演習は、日本史、特に近世史史料を読むために必要な技術を身につけるとともに、卒業論文を執筆する上での基礎技術をあわせて学ぶためのものです。本演習で準備している『民間省要』は、享保改革に対する批判や提言の書、という性格をもつ。享保改革期をめぐるさまざまな問題について考えるとともに、調べ方や史料解釈についても実践する。

◆**学修到達目標** 1. 日本史の研究論文を書くための基礎技術を身につける。2. 史料読解力を養い、史料の使い方や評価の方法を身につける。3. 日本史史料を読む上で基礎知識を身につけ、積極的に学ぶ姿勢を身につける。

◆**授業方法** 時代背景や基礎知識を 1～4 章で学び、5 章以後から演習形式となる。演習形式は各回で指示された課題を事前に作成し、ディスカッションボードや各章の討論ボードを使って議論する。基本的に『民間省要』を使うが、別途課題テキストを配布し、さまざまなタイプの史料を使った学修をおこなう。演習は「作業・質疑応答」によって実力を養うもので、各回での課題作業を欠かすことはできないため、日常的学修を心がけたい。

◆授業計画

	授業内容	はじめに 近世文書読解の基礎知識
1 回	事前学修	古文書・古記録を読む上での、「漢字仮名交じり文」などの特徴を調べる。
	事後学修	課題として提示予定の史料を読み、読み下しできるよう何度も読み返す。
	授業内容	『民間省要』と田中丘隅
2 回	事前学修	田中丘隅と『民間省要』について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
	授業内容	元禄～享保期の社会
3 回	事前学修	貨幣経済の浸透にともなう社会変化について調べる。
	事後学修	自己点検で誤った箇所を重点的に再学修する。
	授業内容	教員によるテキスト読解 第一「地方のこと」
4 回	事前学修	事前に指示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	自身の読み下しと比較し、誤った箇所を重点的に復習する。
	授業内容	「検見」について / 参考文献と歴史史料の区分
5 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「年貢納入」について / 参考文献の種類と特徴
6 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「田地売買」について / 先行研究整理の意味
7 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「肥料や生産用具」について / 歴史資料の種類と調べ方基礎
8 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「検見の手順」について / 歴史資料を読んでみる(1) 領主政策
9 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「年貢早納・小物成」について / 歴史資料を読んでみる(2) 法令
10 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「定免制」について / 歴史資料を読んでみる(3) 領民生活
11 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	「小作」について / 最終報告課題に向けての事前準備
12 回	事前学修	事前に示された課題について作業し、調べる。
	事後学修	討論の結果を踏まえて、自身の弱点・誤った箇所を把握し、復習する。
	授業内容	

◆**教科書** 事前に必要な史料を配付する。

◆**参考書(参考文献等)** 必要に応じてディスカッションボードで紹介する。

◆**成績評価基準** メディア授業受講状況（質疑応答、ディスカッション）50%，提出課題の評価50%。

◆**備考** 既にメディア授業で本講座に合格した学生は、充当科目を問わず受講できません。